

2023年度

助成事業報告集



Kiguchi

Kiguchi Foundation
公益財団法人 **木口福祉財団**

も く じ

- **2023年度助成事業の概要** P 2
 - 1. 助成事業の趣旨
 - 2. 助成内容
 - 3. 助成予定額
 - 4. 公募
 - 5. 助成対象の選考
 - 6. 選考結果の通知および助成金の交付
 - 7. 対象事業の完了報告

- **2023年度助成対象事業一覧** P 4

- **選考委員** P 115

2023年度助成事業の概要

1. 助成事業の趣旨

公益財団法人木口福祉財団は、福祉活動やボランティア活動等の事業に対する助成を通じ、市民参加型福祉の促進と地域振興をはかり、障がい者等の社会的に弱い立場におかれている方々にやさしい、明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的としています。

2. 助成内容

地域福祉振興助成

地域福祉振興助成は、障がい者等を支援する福祉活動やボランティア活動に対する助成を通じてやさしく住みやすい地域社会の創造に資する事を目的とします

(1) 対象団体

障がい者や社会的弱者を支援する福祉活動及びボランティア活動に取り組む団体・グループ

(2) 対象事業

- 講演会・講習会・イベント・広報・調査研究・出版の費用
- 工事費
- 器具、備品などの物品購入費用
- 車両購入費用

3. 助成予定額

年間の助成金総額 50,000,000円

4. 公募

(1) 公募案内

助成金公募の案内は、事前に当財団のホームページ、社会福祉協議会の機関誌、その他関係団体の機関誌などを通じて実施し、WEBで公募の受付をしました。

(2) 公募期間

2023年2月1日から3月14日まで

(3) 応募件数

282件

5. 助成対象の選考

(1) 一次選考

すべての申込案件について、4名の選考委員が書類選考を実施しました。

一次選考による結果 97件

(2) 聞き取り調査の実施

一次選考を通過した97件について、6月から8月にかけて聞き取り調査を実施しました。

(3) 最終選考

2023年度の助成対象団体は、選考の結果下記の通り決定しました。

助成件数と助成総額

65件 59,680,000円

6. 選考結果の通知および助成金の交付

(1) 選考結果の通知

すべての申込案件について、選考の結果を書面で通知しました。

(2) 助成金の交付

各団体と「助成金交付に関する確認書」を交わし、振込みで交付しました。

7. 対象事業の完了報告

助成対象事業の完了後、各団体より所定の書式で事業完了報告の提出を受けました。

2023年度 助成対象事業一覧

地域福祉振興助成 講演会・講習会・イベント・広報・調査研究・出版

(東京都)

P8 公益財団法人日本ダウン症協会

(兵庫県)

P10 特定非営利活動法人兵庫盲ろう者友の会

P12 NPO起立性調節障害ピアネットAlice

P14 兵庫県手話サークル連絡会

(岡山県)

P16 岡山県難病団体連絡協議会

(山口県)

P18 グラスルーツいわくに

(愛媛県)

P20 特定非営利活動法人インクルーシヴ・ジャパン

地域福祉振興助成 工事

(宮城県)

P22 認定特定非営利活動法人グループゆう

(東京都)

P23 特定非営利活動法人多摩川流域生活支援ネットワーク

(福井県)

P24 社会福祉法人紫水の郷

(静岡県)

P26 特定非営利活動法人絆

(三重県)

P28 特定非営利活動法人呼夢・フレンズ

(兵庫県)

P29 特定非営利活動法人ファミリーファーム

P30 社会福祉法人芦屋なかよし福祉会

(岡山県)

P32 社会福祉法人愛徳福祉会

P33 社会福祉法人笠岡市社会福祉事業会

(広島県)

P35 社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会

(山口県)

P36 社会福祉法人アス・ライフ

P38 株式会社福祉メイキングスタジオ

(高知県)

P40 特定非営利活動法人あさひ会

地域福祉振興助成 物品購入

(宮城県)

P42 一般社団法人石巻グリーンフサポート

(千葉県)

P43 特定非営利活動法人自立支援ネット我孫子

P45 社会福祉法人よつかいどう福祉会

(新潟県)

P46 長岡市障害者施設ふれあい委員会

(長野県)

P47 特定非営利活動法人WHITE CANVAS

(岐阜県)

P49 一般社団法人サステイナブル・サポート

P51 社会福祉法人東濃福祉会

P53 特定非営利活動法人らいふくらうど

(静岡県)

P55 特定非営利活動法人六星

(愛知県)

P57 一般社団法人障がい者みらい創造センター

(京都府)

P59 社会福祉法人伏見ふれあい福祉会

(兵庫県)

P61 一般社団法人一圭会

P62 特定非営利活動法人そら

P63 特定非営利活動法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク

P65 社会福祉法人みのり

P66 高砂六星会

(和歌山県)

P68 一般社団法人和乃絆

(鳥取県)

P70 認定特定非営利活動法人十人十色

P71 特定非営利活動法人きらめき

(岡山県)

P73 社会福祉法人勝明福祉会

(山口県)

P74 社会福祉法人あーす

P76 社会福祉法人るりがくえん

(香川県)

P78 社会福祉法人ラーフ

(宮崎県)

P80 社会福祉法人キャンパスの会

(沖縄県)

P81 一般社団法人Kukuru

地域福祉振興助成 車両購入

(北海道)

P83 社会福祉法人登別さいわい福祉会

(千葉県)

P84 特定非営利活動法人カモミール

(岐阜県)

P85 特定非営利活動法人りあらいず和

(静岡県)

P87 認定特定非営利活動法人フリースペース・うえるびー

(京都府)

P89 一般社団法人あすへのとびら

(大阪府)

P91 特定非営利活動法人ナポレオンフィッシュ

(兵庫県)

P92 一般社団法人ことばの道

P94 特定非営利活動法人Birth神戸

P96 尼崎市聴力障害者福祉協会

P97 合同会社青葉

P98 特定非営利活動法人つつじ会

(岡山県)

P100 社会福祉法人結い

P102 特定非営利活動法人ピアサポートセンターひといろの実

P104 特定非営利活動法人のぞみ

(山口県)

P105 特定非営利活動法人キュアポート

(愛媛県)

P107 社会福祉法人金亀会

(高知県)

P108 特定非営利活動法人ゆうハート安芸の会

(鹿児島県)

P111 社会福祉法人ウイズ福祉会

(沖縄県)

P113 社会福祉法人たまん福祉会

公益財団法人日本ダウン症協会

http://www.jdss.or.jp

【所在地】 東京都豊島区

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

公益財団法人日本ダウン症協会（JDS）は、ダウン症のあるお子さんを持つ人たちと、ダウン症のある人の支援をしてくれる方々を中心にした会員組織です。ダウン症（ダウン症候群）のある人たちやご家族の福祉の増進に寄与することを活動目的としています。

活動としては、①普及啓発活動：セミナーの開催、3月21日の「世界ダウン症の日」「ダウン症啓発月間」（3月）を中心にイベント開催や啓発ポスターの制作・配布など ②情報提供活動：会報、ミニブック、子育て手帳、その他各種パンフレットの制作・及び配布（一部有料）。専門家や研究者による調査・研究やマスメディアへの取材協力など。海外のNPOとの情報交換、連携も行う。③相談支援活動：ダウン症のある人に関する電話相談（ピア・サポート）および相談員の研修。親の会や関係機関の紹介など。④調査研究活動：ダウン症のある人の権利擁護活動やアンケートの実施、出生前診断や各種政策への意見提出など。2017年より隔年で日本ダウン症会議を開催し、ダウン症のある人や支援者、専門家を中心に広く情報を収集・発信。「成人期ダウン症研究会」の開催。こども家庭庁や文化庁など政府、他NPOが主催するイベントやシンポジウム、パラ陸上連盟などの障害者スポーツ団体の競技会などへの協力など。

「冊子『大切な命を産みはぐくむために』の制作」

【助成額】 63万円

実施目的

医師・保健師・助産師・看護師など、ダウン症のある赤ちゃんを産み育てる家族をケアする、地域の保健医療に携わる専門家に、ダウン症についてより知っていただくための冊子を刊行し、無料配布する。

実施内容

2023年、公益財団法人日本ダウン症協会（JDS）が2009年に、医療従事者向けに制作し、広く配布してきた冊子「大切な命を産み育むために」。医療技術の進展によって妊婦をとりまく環境が変化したことから、改訂版の制作を企画した。

折しも厚生労働省「NIPT等の出生前検査に関する専門委員会」の議論を受け、同省より「出生前検査に関する悩みや不安をもつ妊婦やその家族の支援に向けて、日頃から産婦人科・小児科等の医療機関、福祉関係機関、児童発達支援センター、ピアサポート団体、地域団体等と出生前検査等に関する状況を共有しておく」という方針が示された。ダウン症のあるお子さんを授かった妊婦を支える、地域の保健医療に携わる方々の役割はなおいっそう大きくなっている。

JDSでは、日本遺伝看護学会に編集協力をいただき、内容の制作と検討を繰り返した結果、新冊子は旧版から完全に内容を刷新し、題名も『とくべつな赤ちゃんを産み育てる人に寄り添うときに大切なこと』として発行することになった。

まずパイロット版800部を制作・印刷し、医療・保健従事者に広く配布。アンケートによる意見を募った。

その後、パイロット版に寄せられた意見のほか、制作に携わったJDSや日本遺伝看護学会のメンバーも見直しを行い、正規版「たいせつな赤ちゃんを産み育てる人に寄り添うときに必要なこと ～地域保健医療に携わる皆様へ～」(題名をパイロット版より変更)を制作した。

正規版は初版で3000部を印刷し、JDSの会報やホームページ、SNS(Instagram、Facebook)などを通じ、地域保健医療に携わる人たちに無料で配布を行う旨を呼びかけた。また、チラシも制作し、JDSの会員や連携先の団体などを通じ、配布した。申し込みのあった人達には、JDSが送料を負担し、冊子を送付した。また、JDSが患者会としてブース出展する各種の医療系学会でも、冊子やチラシの配布を行った。

一方、限られた冊数を有効に活用するため、現在はJDSのホームページに冊子のPDF版も掲載し、特に医療関係者以外にも興味のある人たちには、PDF版を活用いただくよう呼びかけている。

今後も自費または新たな助成金による第2版の印刷・配布を検討しており、引き続き、保健医療関係者に理解を深めていくための活動を行っていききたい。

得られた効果

郵送、学会などの会場配布などにより、パイロット版は800部すべて、正規版は2750部を配布済み。アンケートでも「読みやすい」「大変参考になった」など、好意的な評価をいただく一方、改善に向けてのご意見も随時いただいています。

配布希望のお申し込みをいただいた方には、送料無料でお送りする一方、医療系学会のブース出展では、1回につき100～200冊を配布しました。

まだまだこの冊子の存在を知らない人も多いのですが、学会で冊子やチラシを精力的に配布したことで、それなりに多くの方の手にお渡しすることができたと思います。

出生前診断の受診・未受診に関わらず、保健医療の関係者が妊婦さんやご家族に寄り添っていかれるうえで、この冊子がお役に立てば幸いです。

今後の課題

JDSでは今後も継続して、「たいせつな赤ちゃん」を配布していきたいと考えていますが、第1刷の在庫は残り少なくなっており、事業の継続のための資金調達が大きな課題です。

多くのNPOと同様、JDSもコロナ以降、特に会員の減少傾向が強まっており、資金の安定的な調達が大きな課題となっています。新規の助成金をもらうための努力を行うほか、利用者には送料の自己負担や寄付のお願いなども必要になるかもしれません。



特定非営利活動法人兵庫盲ろう者友の会

<http://hyogo-db.com/>

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

障害サービス事業：同行援護、居宅介護、重度訪問介護 介護保険：高齢者向け居宅介護
県・神戸市・姫路市・西宮市・尼崎市・明石市委託事業：盲ろう者向け通訳・介助員派遣、養成
県委託事業：生活訓練、相談、啓発事業 自主事業：交流会、学習会

「盲ろう児支援の講習会開催及び啓発冊子作成」

【助成額】 80万円

実施目的

- ①先天性盲ろう児についての支援の方法を学ぶ
- ②盲ろう児を持つ家族、関係者に「ひょうご盲ろう者支援センター」の役割を知ってもらう

実施内容

①イベント名：会議

開催日：2023年9月9日、10月29日、
2024年1月18日、2月25日、7月1日、7月11日、8月5日

開催場所：ひょうご盲ろう者支援センター

②イベント名：合同学習会

開催日：2024年2月25日

会場名：ひょうご盲ろう者支援センター

参加人数：盲ろう児3名 家族3名 スタッフ10名

内容：盲ろう児と支援者で、クッキー作り。
長尾公子氏からの支援のアドバイス。

③イベント名：個別学習会

開催日：2024年月23日

開催場所：中山記念会館活動室2

参加人数：8名

内容：城下真美氏と夢ふうせん施設長岩崎順子氏の講演

開催日：2024年3月26日

開催場所：中山記念会館活動室2

参加人数：8名

内容：田中尚美氏と夢ふうせん施設長岩崎順子氏の講演

開催場所：2024年4月13日



開催場所：ひょうご盲ろう者支援センター

参加人数：9名

内容：吉村未来氏と長尾公子氏の講演

開催日：2024年8月6日

開催場所：中山記念会館活動室1

参加人数：5名

内容：吉村未来氏と平井裕子氏の講演

④ 冊子作成「視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろうの子どものご家族、関係者の方々へ」5000部関係各所に郵送した。



得られた効果

①学習会の効果

盲ろう児についての学習会は行ってきたが、個人の支援をテーマに初めて学習会をおこなった。

参加者から、対象盲ろう児の理解を深めることができ、より身近に感じることもできた。今後の支援に大変役立った、今後も継続してほしいとの意見をもらった。盲ろう児支援のノウハウの指南書は福祉、教育どの分野でもほとんどない。また、大人の盲ろう者と支援の方法は大きく違う。その上に、個々の盲ろう児は、その障害や環境の違いから個別性も強い。支援者は、支援の方法に悩みをもっていた。今回の学習会は、今後の盲ろう児支援に大きな成果があった。

②冊子の作成

盲ろう児を持つ家族、関係者から多く寄せられるのは、「役所に行ったが、適切なアドバイスや適切な施設を紹介してくれなかった」「地域の学校や施設、事業所の方が盲ろうについての知識がない」「周囲に同じ障害をもった関係者がいなくて、孤独だった」である。「兵庫盲ろう者友の会」につながった時、「早く教えてほしかった。長い間つらかった」と言われる。この冊子を、関係機関に配布し、少しでも早い時期に「兵庫盲ろう者友の会」を知ってもらうことを目的に冊子を作成した。配布の効果は今後であるが、成果があがるよう、広報していきたいと考える。

今後の課題

盲ろう障害は、法律上の定義がないこと、兵庫県下で約500名と数が少ないことなどの理由から、福祉・教育関係者の中でさえ周知されていない。そのため、多くの盲ろう者が制度があることさえ知らずに生活している。そうした盲ろう者に制度を周知することが一番の課題である。盲ろう者福祉に対しての予算が少ない。ヘルンケラーを想像していただければわかるように、丁寧な支援が社会参加・自立につながる。少ない予算の中、人材の量・質両面からまったく足りていない。社会が盲ろう者支援の必要性を理解し、盲ろう者福祉の充実を進めていきたい。

【所在地】 兵庫県神戸市 【対象者】 起立性調節障害の方

【日常の活動】

- ・親同士のピアなコミュニケーションの場の提供
親の会（カフェAliceの会）対面開催月1回、オンライン開催隔月
- ・起立性調節障害の理解を広めるための周知活動・冊子による啓発・会報誌発行
- ・HP運営、SNS発信（公式LINE、Facebook、X（旧Twitter）、Instagram）

情報提供

- ・カウンセリングの場の提供・学校などへの出張講座 ・ピアネットアリスネットワーク協議会の運営（各地での交流会）
- ・勉強会、講演会・シンポジウムなどの開催 など

「起立性調節障害の理解を求める講演会の開催」

【助成額】 24万円

実施目的

「起立性調節障害」という病気について、メディアで取り上げられることも増えてきたが、起立性調節障害とわかったものの、どのように対応すればいいのかという悩みがつきることはない。毎日つらそうな子どもたちを見ている親や学校の先生方からの相談がHPを通じ全国各地から寄せられている。

昨年、奈良県高等学校人権教育研究会に研修講師として参加させていただいた際、奈良では情報が少なく困っておられるとの声が多く、奈良での周知活動の必要性を強く感じた。

子どもの体調が悪く神戸まで来ることができない方たちのために、まだ支援体制が整っていない地域で講演会を開催し、子どもたちが未来に向けて安心して進んでいけるような支援につなげたい。

実施内容

◇企画開催

イベント名：講演会「起立性調節障害」の理解と子どもの未来

開催日：2024年1月14日

会場名：奈良市保健所・教育総合センター（はぐくみセンター）9階大講座室

参加人数：160名

内容：1部 えがおのこども しもたけクリニック院長 下竹敦哉氏による講演

2部 起立性調節障害の経験者として伝えたいこと

ファシリテーター 奈良女子大学附属中等教育学校 養護教諭 加島ゆう子氏登壇者 体験者3名、

ゲスト 下竹敦哉氏



得られた効果

- ・参加目標人数 150名以上→参加者160名（申し込み総数194名）
- ・起立性調節障害について正しく知ることができる
- ・具体的な対応方法を知ることですぐに実践できる
- ・体験者の生の声を聴くことで、子どもたちが何に困っているのか、どんな援助を必要としているのかを具体的に知ることができる
- ・奈良市の親や当事者同士がつながることができる



今後の課題

- ・体調が悪いなどで参加できなかった方からまた奈良で開催してほしいとご要望があった。
→奈良での開催にあたっては、人的な資源の不足と予算の不足があり、頻繁に開催することは難しい。
オンライン開催の親の会への参加を促した。
- ・実際に起立性調節障害の治療に当たっておられる医師や学校関係者からも当日参加できなかったが、専門の医師の講演や、経験者の話を聴きたかった。オンラインで視聴できないかのご要望があった。
→オンラインの開催は想定していなかったため、ご要望にお応えすることができなかった。経験者たちの個人情報がかかり含まれているため、オンラインでの視聴はためらわれる。
- ・奈良近隣の市町村にもチラシを配布したことで、今まで当団体を知らなかった方たちにも情報を届けることができた。
→相談できるところがなく困っていたとの意見もあり、まだ周知がすすんでいない地域があることがわかった。
- ・奈良の親の会とつながりができたので、今後一緒にできることを考えていきたい。

兵庫県手話サークル連絡会

【所在地】 兵庫県姫路市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

聴覚障害者や難聴者、盲ろう者と手話にかかわる人が一緒に学ぶ、年1回の研修会と7回のブロック学習会を開催する。また、兵庫県内の手話サークルから選出された、ブロック代表と委員による毎月1回の代表者会議を実施している

連絡会加盟の各ブロック70の手話サークルは、各地域で週に1回サークル例会を開催し、地元ろうあ協会とともに手話の普及・聴覚障害についての理解啓発活動を行う。

「研修会・ブロック学習会の開催」

【助成額】 42万円

実施目的

手話を学ぶ人を増やし、手話がどの場面でも使え、手話に対する理解を広める。

実施内容

イベント名：東播ブロック学習会 開催日：2023年10月29日

会場名：淡路市中央公民館（しづのおだまき館） 参加人数：75人

内容：伊達美紀さん・柏木智之さんの講演

イベント名：阪神ブロック学習会 開催日：2023年11月26日

会場名：木口記念会館 参加人数：32人

内容：大川能子さん・澤野弘子さんによる絵本の読み聞かせとポイントの説明の後、手話劇

イベント名：神戸ブロック学習会 開催日：2024年2月4日

会場名：神戸市障害者福祉センター 参加人数：92人

内容：仲井 正さんによる講演

イベント名：県サ連研修会

開催日：2024年4月7日

会場名：丹波篠山市立四季の森生涯学習センター

参加人数：73人

内容：中西久美子さんによる講演



イベント名：北播ブロック学習会 開催日：2024年5月26日

会場名：西脇市総合市民センター 参加人数：50人

内容：岩本治也氏による講演

イベント名：丹有ブロック学習会

開催日：2024年6月23日

会場名：三田市総合福祉健康センター

参加人数：32人

内容：ニュースポーツ ポッチャで遊ぼう



イベント名：但馬ブロック学習会

開催日：2024年7月14日

会場名：豊岡市民会館 参加人数：36人

内容：手話を使ったゲームをしよう

イベント名：西播ブロック学習会 開催日：2024年8月18日

会場名：たつの市総合福祉会館 参加人数：115人

内容：平さんによる講演

全ての研修会・学習会は、内容をまとめ、「県サ連だより」を作成し、関係団体、関係者に郵送して内容の共有を行った

得られた効果

今回、貴財団からの助成のおかげで、講師を招いての講演が例年に比べて多く開催できた。申請書にも記載しているように、兵庫県は範囲が広いこともあり、地域により手話に対する理解度や知識の深さに格差があり、地域ごとにニーズが違う。そのため、地域のニーズにあった学習会を開催している。講師を招き専門的な知識を深める学習に期待をする参加者が多く、例年に比べ参加人数が多かった。参加者は社会や環境の変化に伴い手話の変化や学びの深さを感じることができた。

今後の課題

兵庫県下、7つのブロックからブロック代表が選出される。ブロック代表は地域によって、任期が1年、2年、長期と様々ある。委員会に初めて参加する委員には戸惑いが見られる。内容も遡ることもあり、継続した委員の選出を考える必要もある。今後も積み重ねの必要な学習会の企画も必要と考える。世代ごとに代表が交代することで新しい発見もある。どのように相乗効果を生み出していくのが課題である

岡山県難病団体連絡協議会

nanbyouren-okayama.com

【所在地】 岡山県岡山市

【対象者】 難病患者

【日常の活動】

岡山県・岡山市よりピア・サポート相談事業の委託を受け、ピア・サポート相談事業を行う。相談に応じて、医療機関、岡山県難病医療連絡協議会、岡山県医薬安全課、岡山県難病相談・支援センター、ハローワーク、各市町村の保健所、地域包括支援センター等、各関係機関と連携し、患者の要望に応じた相談調整を行っている。また難病患者の利益の向上のため難病患者、その家族、関係者等に向けた医療、介護、福祉、生活、就労、メンタルなどの総会、フォーラム、研修会、講座を行っている。患者同士の交流の場として定期的に難病カフェを実施。

- ・ピア・サポート相談
- ・団体総会 ・難病関係研修会や岡山県主催の会議への職員の参加
- ・岡山県議会研修会や企業等での難病についての講演
- ・難病フォーラム年2回 ・難病カフェ ・就労支援
- ・難病ウォーキングキャンペーン

「難病ウォーキングキャンペーンの開催」

【助成額】 22万円

実施目的

社会で難病を理解している人は少なく、家族・学校・職場など周囲にわかってもらえず苦しい思いをしている声が多くある。どんな病気でもどういったことに困るのか、多くの人々が難病の内容を知らないため社会的に難病患者を生きづらくしている。一人でも多くの人に難病を知ってもらうことを目的に難病ウォーキングキャンペーンを行い、難病患者が暮らしやすい社会の実現を目指す。また社会への啓発と共に、一人で悩んでいる難病患者へも多くの患者(仲間)がいることの呼びかけや、外見からわかりにくい障害等があることを示すヘルプマーク等の理解促進へも繋げる。

実施内容

難病ウォーキングキャンペーン in 倉敷2023

令和5年10月22日(日)

10:00-受付(倉敷駅) 10:30-開会 10:45-ウォーキング スタート

横断幕を先頭に「難病患者に理解と励ましを」と表記した啓発のトートバッグを参加者が持ち、襷をかけ、倉敷駅をスタート。倉敷美観地区内を歩きながら倉敷アイビースクエアを目指す。難病患者等、支援や配慮を必要とする人が利用するヘルプマーク、ハート・プラスマーク、IBD マークを多くの人にも見て、知ってもらうため、プラカード掲げる。より目に留まってもらえるよう風船を持ち歩く。

11:05-ウォーキング ゴール

倉敷アイビースクエアに到着。参加者へ参加賞を渡し、全員で集合写真撮影し、閉会。

得られた効果

今回、啓発トートバッグに加え、プラカード、嚶、風船を利用したことで、より多くの人へ目を留めてもらえたこと、通りがかりの人へ声をかけてもらうなど興味を持ってもらえたことがとてもよかった。

また参加者同士の交流も見られ、楽しく歩く様子が窺えたことがよかった。今回のウォーキングキャンペーンがメディアに取り上げられ、テレビ放映もされたことで難病への理解を多くの人へ発信することができた。会終了後にウォーキングキャンペーンについての問い合わせをいただき、関心を持っていただけたことがよかった。

今後の課題

今年で6年目のウォーキングキャンペーンの開催だったが、やはり難病について知らない人はまだまだたくさんいる現状である。しかし、難病ウォーキングキャンペーンを継続開催していることで、年々賛同して歩く人が増え、難病について目とめて、興味を持ってもらえ、知ってもらう機会となっている。難病は現在 338 疾病とあり、理解をすることは一見ではとても難しいことだからこそ、毎年開催することに意義がある。これからも難病団体として難病患者が暮らしやすい社会の実現に向けて、難病への理解を発信していく。



グラスルーツいわくに

【所在地】 山口県岩国市

【対象者】

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

(毎週火曜日の練習会活動)

奇数週 フットサル(もしくは陸上)練習会 偶数週 ボッチャ練習会

(年2回のサッカー・フットサル教室…イベント)

現役もしくは元サッカー選手、フットサル選手をゲストに招き、障がいの有無に関わらずサッカー・フットサルを通して相互理解を進められるようにイベントを開催しています。

(ボッチャ大会、年1～2回)

年齢や性別、障がいの有無に関わらず楽しめるボッチャを通して交流を図っています。

(その他普及活動)

各スポーツの楽しさを伝えていけるようお祭りや各種イベントにボッチャ体験ブースやフットサルコーナーを設置させていただいています。また、放課後デイサービスとの地域交流の一環として、ボッチャなどのスポーツ活動の講師活動を行っています。

「ボッチャ普及活動のための物品の購入」

【助成額】 13万円

実施目的

ボッチャボールを購入することで、ボッチャ大会の規模の拡大など、より活動の機会を広げる為。また、ランプを購入することで、より幅広い障がい者の方に対応する為。

実施内容

◇物品購入

ボッチャボールセット 820R プラス樹脂ボールケース付の購入

ボッチャ体験会やボッチャ大会を開催した際に、より多くの方に参加し、ボッチャを楽しんでいただけるようにボッチャボールセットを購入しました。

軽量ランプシングルの購入

ボッチャ練習会やボッチャ大会などを開催する際に、これまで対応できていなかった重度の障がいをもたれた方に対応できるようにランプを購入しました。

得られた効果

ボールセットの購入はボッチャ大会の開催に間に合ったため、他団体のボールも含め、岩国市内でのより大きな規模の大会の開催に寄与することができました(これまで100名規模であったが、今回の大会は200名程度)。また、「ふくろう公園インクルーシブデイ」という障がい者の為に公園を借りきった

イベントでのボッチャ体験コーナーでもより多くの方に同時にボールに触れてもらう事ができるようになりました。ランプに関しては配送の関係で大会やイベントに間に合わなかった為、練習会でしか使用はできていませんが、今後は大会やイベントに活用していきたいと思っています。

今後の 課題

今回助成いただいた事業を通し、まずはイベントや大会を継続的に実施することで、重度の障がいの方などより多くの方にボッチャに触れていただく機会を増やしていきたいと考えています。また、放課後デイサービスや小学校との体験、交流会などを企画し、これまでボッチャを知らなかったという方ややりたいと思っていたけど出来なかったという方たちにもこちらから出向いて体験していただく機会を作りたいと考えています。課題としては、そういった活動を行うための人員(一部のボランティアスタッフに負担がかかり過ぎないように)、道具を丁寧に扱ってもらえるように目を配り、管理すること、他団体や公的機関との協力体制を強化していくことなどが挙げられます。少しずつ課題を解決しながら、上記を実現できるように取り組んでまいります。



特定非営利活動法人インクルーシヴ・ジャパン

<https://www.inclusive.jp/>

【所在地】 愛媛県伊予郡

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、難病患者、その他

【日常の活動】

一人ひとり違った背景と個性を持つ方々の障がい特性や心身の状態に応じて落ち着いて制作に集中できる環境を整備して居場所を創り、それぞれの方の魅力を最大限に引き出すよう自立に向けた支援をしています。アート制作を通じて社会と繋がり自己肯定感を取り戻し、就労生活の基盤を整え、一般就労に向けて自立した社会生活を営むことができるようなステップを作っています。

インクルーシヴ・松山 ヒカリのアトリエ：就労継続支援B型事業

- ①アートやクラフトを中心とした創作活動
- ②絵画販売
- ③オリジナルグッズ販売
- ④アートイベント展示
- ⑤アートカフェの運営
- ⑥いちご園の管理

「障がい者アート作品のデジタルアーカイブ化」

【助成額】 79万円

実施目的

作品を社会へと拡げて利用者様の収益を増やし自立を促していくためには、日々生まれ行く素晴らしい作品をより一層社会に繋げ、独自の取り組みに挑戦していく必要があります。また、地域の潜在的支援者への認知を促し、支援者になっていただく機会を創出していくため、展覧会を開催し内外の交流の場をつくる必要があります。展覧会にてアート展示やオリジナルグッズ販売を行うことは企業や自治体への有力なPRにもなります。利用者様のアートを大切に保存し、著作権保護をしながら社会と繋いで収益を得られる持続的な仕組みとしていくためにこの事業が必要だと考えております。

実施内容

凸版印刷株式会社の最新技術であるリアルスキャン技術により、アート作品1枚1枚、リアルな質感を再現しながらのデジタルアーカイブ化が可能となりました。デジタルアーカイブ化したデータを保存・活用し障がい者アートをオリジナル商品等様々な形へと展開することで、作品発表の機会を創出し社会と利用者様を繋ぐ架け橋となり、才能を活かせる仕事を増やし自立への一歩を促進するきっかけとなる新事業を実施。

(10月)

凸版印刷株式会社により障がい者アーティストのアート作品100枚をアーカイブ化しデータ保存・整理を行なった。

(10月19日～11月12日)

実施場所:ジャガー・ランドローバー愛媛 ART CAFÉ Inclusive supported by NESCAFÉ

アート作品100点をデジタルアーカイブ化保存し、活用した展覧会を開催。

- ・絵画そのものだけでなくアーカイブ画像を活用しステンレスボトルやクリアファイルなどのオリジナルグッズへと展開をした。

得られた効果

1. 車のショールームという普段は馴染みのない場所での展覧会を行うことで障害を持つ方がアートを通して社会に参画する機会を創出し、多くの方に存在を知っていただけた。
2. 地域のたくさんの方の目に触れることとなり、利用者さまの自己肯定感を高め、就労訓練へのモチベーションをアップすることに繋がった。
3. より多くの利用者さまのアート作品をデジタル化して保存することができたことで、今後の新たな事業展開（レンタルアート事業・オリジナルグッズ販売事業など）への基盤を作ることができた。
4. 地域企業と協働することでメディアに取り上げられるなど、多様性に富んだ包摂的な社会の実現に向け、障がい者の社会参加・就労支援機会創出と廃棄物削減を啓発する取り組みとして効果的なPR ができ、活動についての認知度向上に繋がった。
5. 資源のリサイクル率向上を目指す一般社団法人アップサイクルとも協働し、従来廃棄されていた素材に障がい者アートを掛け合わせるといった新しい取り組みに、アーカイブ化画像を使用することでオリジナルグッズ販売への可能性が広がった。

今後の課題

新たな課題として、アート作品が仕事となり工賃向上へと繋がるような持続的な仕組みを作っていく必要がある。今回のデジタルアーカイブ画像を活用し、レンタルアート事業など新しいチャレンジに積極的に取り組んでいきたい。また、地域企業をはじめとする様々なステークホルダーのみなさまとの連携を通して、障がいを持つ方が生み出すアートの魅力をよりたくさんの方に知っていただけるよう、これからも手段や方法を模索しながら活動を継続していきたい。



特定非営利活動法人 グループゆう

<https://www.g-yuu.com/>

【所在地】 宮城県仙台市 【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、発達障がい者
難病患者

【日常の活動】

障害者総合支援法に基づく事業「短期入所事業」

利用者が学校や作業所、自宅から17時以降に来所し、翌日10時までの間過ごす。

送り迎えの送迎も実施する。食事は夕食と朝食を提供し、風呂や余暇を過ごして22時までに就寝となる。自宅と同じような過ごしを家族以外の人と自宅以外で過ごすことができるようになるとともに、家族以外の人や自宅以外での過ごし方や、食事内容について家族と情報交換をすることで利用者ご本人への理解が深まり、より良い自立支援に活かすことができる。

「ベランダの改修工事」

【助成額】 160万円

実施目的

建物2階のベランダ部分の朽ちている部分とその影響が及んでいる部分の修繕をすることでショートステイ事業の本格的な稼働をすること。

実施内容

1. 南面架設足場組工事
2. 既存エアコン室外機着脱
3. 既存ベランダ床解体撤去
4. ベランダ床下地組工事
5. 軒天、外壁補修工事
6. 改修用ドレン取付
7. FRP防水工事
8. アルミアングル取付
9. 補修部軒下、外壁塗装
10. ベランダ手摺塗装
11. 発生材処分
12. 雨樋工事
13. ベランダドレン樋付け替え工事



得られた効果

雨漏りの心配なくショートステイ事業が継続できるようになり、受け入れ人数も増やすことができた。また、布団干しや洗濯物干しなどベランダを使用した家事スキルの練習等も実施できるようになった。

今後の課題

新たな拠点整備と人材確保をして短期入所の受け入れ拡充またはグループホームの併設を検討していきたい。

特定非営利活動法人多摩川流域生活支援ネットワーク

<http://www.t-net.ne.jp/~npo.polaris/>

【所在地】 東京都青梅市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

ポラリスワークは、障がい福祉サービス事業の就労継続支援B型の事業所になります。

定員20名の事業所で、月曜日から金曜日通所して利用者の方が作業をしています。

ポラリスワークの主な室内作業は、櫛の拭きと箱への梱包作業とタオルたたみ作業、セロハンテープの梱包作業になります。施設外での作業は、近隣の霊園内の草取り等の清掃作業を毎日しています。

不定期の作業としては、グループホームの居室のクリーニング、個人墓地の定期的な清掃も行っています。

「屋根の改修工事」

【助成額】 100万円

実施目的

作業所として使用している建物が経年劣化による雨漏りがあり、年々雨漏りの箇所も増えてきていて屋根を修繕することで、今後も作業所として使用できるようにする。

実施内容

屋根修繕工事

古くなった屋上の手すりを撤去して、基礎工事を行う。

基礎の上に木材にて骨組みを組み、トタン材で屋根を形成する。



得られた効果

修繕前は雨漏りがある為、屋根裏にバケツを置いて雨漏りを防いでいた。

それでも対応できない壁の継ぎ目からの雨漏りは壁にビニールシート付けて雨水を集めてバケツで回収した。そのような対応をしないといけないことで、雨漏りがある場所の下では、利用者も作業出来ないのが作業スペースが狭くなっていたが、今回の修繕をしたことで雨漏りを心配することなく作業スペースを確保することができるようになりました。この修繕が出来ない場合には、作業所の移転や最終的には事業からの撤退も検討しないとイケない状況でした。そうすると現在利用している方の働く場所や居場所がなくなってしまいました。今回の屋根修繕工事が実施できたことで、これからも安心して事業継続できるようになりました。

今後の課題

現在の場所での事業を継続できるようになったことで、今後も事業を継続して皆さんの働く場所や居場所を確保して、自分たちが生まれ育った地域の中で生活することや、社会とのつながりを通じて自立に向けた支援をしていきたいと思っています。

社会福祉法人紫水の郷

http://www.shisuinosenato.jp

【所在地】	福井県大野市	【対象者】	知的障がい者、精神障がい者
【日常の活動】	障がい者総合支援法に基づく事業 ○障害福祉サービス事業所（多機能型） ・就労移行支援 定員：7名 ・就労継続支援B型 定員：27名 ・自立訓練(生活訓練) 定員：6名 ○地域活動支援センターI型 ○相談支援事業所 ・指定特定相談支援事業 ・指定障害児相談支援事業 ・指定一般相談支援事業（地域移行支援・地域定着支援） ○共同生活援助 ・こぶし 定員：6名 ・かすが 定員：4名		

「風呂場の改修工事」

【助成額】 100万円

実施目的

これまで使用していたお風呂はタイル貼りで、隙間等もあり、特に冬場は寒くゆっくりとお風呂に入っていることができずゆとりある生活ができない状況であり、またドア部分の柱は腐りかけ穴が開いているため、いつ何時折れてしまうか分からない状況であり、利用者の不安の声も上がっていました。また、昔からのお風呂であり、浴槽が深く出入りの際に転倒の危険性も考えられます。利用者に不安なく、快適な生活を送って頂くことを目的にしています。

実施内容

○業者打合せ

- ・令和5年9月11日（月）横田建設様と打ち合わせ（ユニットバス仕様、色等）

○工事期間

- ・令和5年10月16日～令和5年11月13日

○施工業者

横田建設株式会社

○工事内容

- ・令和5年10月16日（月） 第1週目～ 既存外壁・浴槽解体
- ・令和5年10月23日（月） 第2週目～ 基礎・浴室土間コンクリート・給排水配管
- ・令和5年10月30日（月） 第3週目～ 土台・軸組・サッシ取付・ユニットバス据付・外壁貼り
内部造作・塗装・電気給水接続

得られた効果

- ・雪が降るまでに完成し、また気密性もあることで、とても暖かく、一人一人の入浴時間が長くなっています。
- ・新しく手すりが増え、またタイルでなくなったことで床が滑りにくくなり、浴槽が深くなったことで、入浴の際の転倒防止にもつながったと思います。
- ・これまであまり浴槽に浸からなかった方も、ゆっくりとお湯に浸かるという変化が見られています。
- ・とても綺麗であり、「ホテルのお風呂みたい」と利用者がとても喜んで下さっています。
- ・皆さんに安心した生活環境を提供する事ができる様になりました。助成をして頂き、本当にありがとうございました。

今後の課題

- ・お風呂は新しくなりましたが、毎日全員入ることができていません。給湯器のタンク量は4人で生活するための量には十分にあります。お湯の使い方によりタンク量もたず、入浴中に水になってしまうことがあります。お湯の使い方について講習等を開催しながら毎日の入浴を希望されている方には毎日入浴して頂ける様取り組んでいきたい。
- ・グループホームは管理者・サービス管理責任者・生活支援員・世話人で運営していますが、世話人の募集をかけてもなかなか応募がなく、現在も世話人が足りない状況で、他の部門より職員が応援体制をとっています。ハードな勤務となっています。
- ・2か所グループホームを運営していますが、入居者は高齢化になっています。すぐに介護保険の利用につながるわけでもなく、支援も難しいと感じています。



特定非営利活動法人絆

<https://jy08hkizuna.hp.peraichi.com/nagomi>

【所在地】 静岡県静岡市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

障害者総合支援法に基づく事業

精神障害者共同作業所なごみ 就労継続支援B型/定員20名/在籍16名/1日の平均利用者12.6名/
平均工賃23,176円(令和元年 静岡県16,511円 全国16,118円)

就労訓練

サントモ加工有限会社から自動車部品の下請け事業 株式会社ナナミ NANAMIから教育備品の下請け事業
株式会社マリンプルーから子供服、靴下の下請け事業
令和5年度 1名 一般就労

生活支援

個々のサービス利用計画案に基づき利用者の生活をサポートしていく。主に体調管理、服薬管理、社会資源の活用法などを支援していく。家族、計画相談・訪問看護・ヘルパーと連携し利用者のニーズを把握する

「更衣室ドアの改修工事」

【助成額】 74万円

実施目的

高齢の利用者、身体に障害がある利用者の重いドアを引いた際の転倒リスク軽減と更衣室の利用時の混雑の解消を目的とする

実施内容

なごみ作業所 ハンガードア改修工事

10/24(午前) 建具工事 既存ハンガードア撤去

10/24(午前) 木工事 ハンガーレール下地取付

10/24(午後) 塗装工事 ハンガーレール下地 SOP 塗装 10/24(午後) 建具工事 ハンガーレール枠取付

10/24(午後) 塗装工事 ドア枠 SOP 塗装

10/26(午前) 建具工事 ハンガードア吊込み(文化シャッター製 自動閉鎖装置付引戸 カームスライダー)

10/26(午後) 使用開始

文化シャッター製 自動閉鎖装置付引戸 カームスライダーの特徴

カームスライダーは、開閉音の静かさ、高齢者やお子様など力の弱い方でも軽く開けられ、手を離すと自動的に閉じる、快適で思いやりに満ちた自動閉鎖装置付引戸。施設、生活のさまざまなシーンでお役に立ちたい、カームスライダーです(文化シャッターweb サイトより引用)

https://bunka-s-pro.jp/product_category/door/sliding-door/calmslider/



得られた効果

なごみ作業所 更衣室ドアの改修工事による成果

- ①更衣室のドアを改修したことで開閉音がとても静かになった
- ②高齢や身体に障害がある利用者が軽い力でも開閉できるようになった。
- ③以前のドアに比べて余分な力をかける必要がないので転倒のリスクも無くなった。手を離すと自動的に閉まるので改修後の利用者の使用感は好評である。
- ④朝、利用者は着替えをするが開閉時のストレスが無くなりドアの前での混雑も解消された
- ⑤混雑するから着替えをしない、身なりを整えないという利用者がいたが更衣室が使いやすくなったことで着替えを持参し身なりを整えるようになった。

まとめ

今回のドアの改修は利用者の負担・リスク軽減だけでなく作業前に着替え、身なりを整える生活訓練にも効果的だった。



今後の課題

なごみ作業所の課題と改修を通じて感じたこと

- ①作業所は40年前の病院なので今後も継続的な改修が必要であること
- ②建物の骨格はしっかりしているが内装はバリアフリー対応の概念が弱い時代の建物であるため利用者が継続して通所できるようにしていきたい
- ③男女トイレなどの水回りの改修は進んだが昼食後に食器を洗う流し台が食堂にない。食器を使用したら洗う、片づける習慣を身に付かせるためにも洗い場を食堂に設置したい
- ④手狭になった作業場を拡充し電動器具を使用した単価の高い作業を増やし利用者の平均工賃をあげていきたい

まとめ

改修することで作業所が利用者にとって使いやすくなるだけでなく生活訓練、就労訓練の強化に繋がると分かりました。今後も改修は続きますが便利になるだけでなく訓練にどう活かせるかの視点も入れて改修を行っていきたい

特定非営利活動法人呼夢・フレンズ

<http://www.com-friends.com>

【所在地】 三重県四日市市 【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者

【日常の活動】

就労継続B型支援事業

- ・餃子製造販売 ・スイーツ製造販売 ・リサイクル石鹸製作販売 ・押し花カード製作販売
- ・手織り品製作販売 ・下請け仕事 ・キッチンカー出動 ・野菜の育成・販売
- ・朝市開催（月／1回） ・餃子の販売会（月／1回）

「温室の改修工事」

【助成額】 65万円

実施目的

譲り受けた古い温室の活用（空調設備等破損状態）

実施内容

- ・空調窓の設置（4か所）
- ・天井屋根ガラスの落下・飛散防止のための安全対策と斜光のためのシートを天井に張る
- ・スライド式引き戸と周辺の出入り口補修



得られた効果

- ・空調窓の設置により、換気、送風が可能になり、空気の浄化、室温の調整が可能になり、作業がしやすくなった。
- ・天井にテント生地の布をはったことにより、天井ガラスの落下、飛散の危険性が回避でき、作業中の安心感が持てるようになった。
- ・天井に張った布の斜光、断熱効果により、室内温度が下がって作業がしやすくなった。
- ・入り口付近の割れてなかったガラスもはめ込まれ、引き戸が閉まるようになって、防犯対策及び小動物の侵入予防ができるようになった。

今後の課題

- ・多肉植物の寄せ植えは農協の店舗で販売させてもらっており評判もいいので、今後もこの温室で苗を増やして寄せ植えも増産していきたい。
- ・農場チームから現在苗で購入している自主製品餃子の野菜（キャベツやネギなど）の育苗をこの温室でできないかと打診されているが、利用者を指導するスタッフが不足しており、今後その確保が課題である。
- ・空調窓をつくり、断熱シートを天井に張ったので、中で作業できる時期が延長できることは確かだが、まだ真夏の暑さを経験していないため、夏季の使用が難しいといった課題が残るかもしれない。

特定非営利活動法人ファミリーファーム

【所在地】 神戸市垂水区

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

主にゴムの内職等の軽作業を行っている。ほかには野菜作りや手芸品・オリジナルグッズ制作を行い、販売するところまで利用者さんと一緒に活動している。時には地域で場所貸しのスペースにして交流を深めている。

「作業場の照明・内装工事」

【助成額】 17万円

実施目的

作業の効率化または利用者が安心して作業に取り組める環境づくり

実施内容

2号店では主に多くの利用者が内職作業をしている。室内の照明が暗いため机上にシーリングライトを取り付ける。そのため電気工事を行う。また、人の視線の改善としては全面ガラス張りの窓やドアに目隠しフィルムを張り付ける。

得られた効果

新しい照明を取り付けることで作業効率が上がり、工賃工場がつながる。歩行者や現在建設中の徳洲会病院の利用される方等が事業所の前を通行するときの視線がなくなり、人の目を気にすることなく作業ができる。互いに気持ちよく過ごせる。作業中の集中力を維持することができる。また、人の目が気になり、2号店で作業ができない利用者が作業場所を気にすることなく仕事ができる。

今後の課題

2号店での仕事を利用者さんが気持ちに負担なく移動ができ、電気を作業机の上を照らし仕事の効率が上がり工賃の向上につなげていくことが課題です。



【所在地】 兵庫県芦屋市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

- ・刺しゅうや織物、陶芸品等、個人個人が自分の技術やペースで創作活動をしています。好きな事を仕事にできれば毎日が楽しい時間となります。それぞれが違った作品制作をしていますので、人と比べられることもなく自分のペースで仕事をしています。
- ・利用者の刺しゅう作品をポーチやバッグ等の製品に仕上げ、年2回施設を開放して作品展示、販売会を開催しています。また、市内中心ですが販売会に参加し、利用者の皆様の工賃向上を目指しています。
- ・施設内で開催するイベントには利用者の皆様もスタッフとして、社会参加の一助となっています。

「外壁木部の改修工事」

【助成額】 100万円

実施目的

建物を管理保持の為、外部のメンテナンスを含めて5年ごとの外壁塗装をおこなった。

実施内容

外部木部の改修工事及びメンテナンス

◇ 工事

1. 直接仮設工事

- ・外部足場 ・飛散養生 ・昇降階段 ・落下災害防止ネット ・開口上部飛来災害防止棚
- ・侵入防止金網設置 ・木部腐食調査

2. 塗装工事

- ・高圧洗浄及びエアブロー
- ・外壁木部塗装下地：既存キシラデコールペーパー剥離
- ・外壁木部塗装下地：アク抜き、染み抜き
- ・木部キシラデコール塗布

3. 美装工事

- ・西面ガラス表面
- ・外部舗装部分美装



得られた 効果

外装のメンテナンス完了

- ・外部木部の劣化（腐食・シミ・剥がれ・反り浮き等）部分の修繕が完了し、長く綺麗に保持管理していく。
- ・足場を組んだことにより屋根を含み日常目視できない部分を調査し、木部以外にメンテナンスが必要と思われる個所を見つけることができ追工事をおこなった。

今後の 課題

メンテナンスの重要性

- ・木部を5年毎にメンテナンスをおこなうことの重要性や保持管理の為の調査の必要性を痛感した。外部に限ることなく、内部の設備点検の定期的な調査もおこなっていく。
- ・今後も調査及びメンテナンスを滞らせることなく、建屋の維持管理を行っていきたい。

【所在地】 岡山県津山市	【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、 発達障がい者、難病患者
【日常の活動】 就労継続支援B型 障害や難病のある人が利用出来る障害福祉サービスを提供しています。利用に年齢制限はなく、又、障害の状態や体調に合わせて支援しています。 動物人形製造をはじめ様々な内職作業（フルーツキャップ・配線組立・ウレタン貼り・封入）を通して自立と社会参加に向けて就労支援を行っています。	

「作業場の屋根・外壁の改修工事」

【助成額】 100万円

実施目的

作業場の屋根・壁・雨樋の老朽化が非常に進んでいるところに令和5年1月24日からの記録的な大雪により壁と屋根と傷み雨もりがする状態となったため。

実施内容

作業場の屋根・壁の改修、作業所屋根壁修理工事
足場を組み、スレートカバー工法にてガルバニウム鋼板を使用し補修工事をしました。

得られた効果

雨もりの心配がなくなり、利用者様が安心して通所することが出来、作業に取り組むことが出来ています。

今後の課題

雨もりの心配が改善されたので、外部からのお仕事を積極的に受け入れ、利用者の作業工賃が向上していくこと。



【所在地】 岡山県笠岡市

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

- ・定員30名
- ・対象は就学前の発達に課題のある子ども。保育士、言語聴覚士、作業療法士等の専門スタッフが子どもの成長や発達に応じて集団療育や個別療育を実施しています。
- ・保育を基盤として園庭遊び、散歩や音楽遊び、季節の行事等、遊びを通して一つ一つの経験を大切に重ねています。
- ・一人ひとり発達の状況や発達特性に応じた関りを通して、運動・感覚・認知・言語などの機能を高め、社会性、生活習慣、ことばなどの発達を促していきます。
- ・保護者とお子さんの成長や変化を共有し、ともに喜びながら、家庭での関わりなどの相談もお受けしながら、前向きな子育てができるよう伴走支援を心掛けています。
- ・地域支援として、地域の1歳半健診、3歳児健診などの健診事業に出向き、早期発見、早期療育につなげています。また、地域の保育所、幼稚園、こども園の先生を対象に発達障害児の支援について理解を促し、啓発に努めています。
- ・地域の関係機関や行政との連絡会を開催し、連携強化と地域課題の共有を行っています。

「屋上テラスのコーティング工事」

【助成額】 70万円

実施目的

屋上がコンクリートの為、屋上スペースの遊具で遊ぶ際に利用児が転倒して怪我をする恐れがある。その為、安全対策として防護マットを使用していたが老朽化により劣化がみられ、ゴムがはがれて散乱し不衛生な状況になっていた。利用児が安心安全に遊べる環境整備、安全対策のため。

実施内容

◇工事

令和5年10月2日に子ども療育センター屋上テラスコーティング工事を株式会社岡山北チャイルド社と契約を締結した。

その後、工事に必要な材料を調達した時点で、晴天が続く工事可能な日程を11月中旬とした。

工事予定日までに子ども療育センターは屋上テラスの遊具を片付けた。

施工日を11月16日に決定した。当日は、屋上テラスの下地清掃をした後、プライマリー塗布を行い、厚さ約1センチの舗装（コーティング）を行った。

舗装の淵が反り返すことのないよう、シートで舗装の淵の養生を1週間した後、覆っていたシートを取り外し、11月30日に完了検査を行い、工事が終了した。

得られた効果

- ・コーティングの際、熱処理をしたことにより強度が増し、耐久性が高まった。
- ・利用児が屋上で遊具遊びをする際、衛生面、安全面が保障され、思い切り身体を動かして遊ぶことが可能になりました。

特に、夏場にプール遊びをする際、はがれたゴムチップ（ゴミのように水面に浮いていた）がプールに浮くことがなくなり、快適にプール遊びが楽しめると思います。

今後の課題

- ・現在使用している園庭の大型遊具が老朽化してきているため、新しい大型遊具を購入し、利用児が快適に遊べる環境を整えたいと思っています。
- ・現在使用しているスクールバスも購入から約10年が経過し、徐々に老朽化している。新しくスクールバスの購入も検討したいと考えています。
- ・共生社会を目指し、発達障害の啓発活動の一環として公開講座の実施等地域貢献にも努めたいと思います。



【所在地】 広島県広島市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者

【日常の活動】

定員6名のグループホーム(2F3名 3F2名入居中)と併設の短期入所事業を行っている。
徒歩15分の場所にあるアイラブ作業所(広島市中区吉島西2丁目3-22)に通う仲間が主に利用している。
聴覚障害を併せ持つ利用者が多いので手話などコミュニケーション支援に力を入れている。

「IH クッキングヒーターの設置工事」

【助成額】 24万円

実施目的

職員と利用者が安心・安全に食事を作る為

実施内容



物品名) IHクッキングヒーター(商品名:CS-G321VWSR)1台

グループホーム3Fの一角に職員と利用者が食事を作る為の設備(IH)を購入した。

使用頻度) 毎日(調理時)

使用について) 聴覚障害を持った利用者・職員が火を使用しないので安心して調理できている。

IHコンロを実際に使用してみて視力で確認できる機能(火加減・油温度・タイマー)が多いことに気づき料理に不慣れな利用者にも説明しやすくなり料理のレパートリーが増えることを楽しみにしている。

得られた効果

調理作業の安全・安心

当グループホーム3階のコンロがIHになることにより、聴覚障害者を持った利用者・職員が安心して調理することができる。火災のリスクが減り、安心して生活ができる場・働ける場になる。

IHコンロを実際に使用してみて目で見て分かる機能(火加減・油温度・タイマー等)が多いことに気付いた。料理に不慣れな職員・利用者にも説明がしやすくなり料理のレパートリーが増えることを期待する。

今後の課題

IHをきっかけにして安心して暮らせる環境を整える。

聴覚障害とプラス他の障害を抱えている利用者の地域での暮らしはまだ不安な点が多く、利用者もなかなか新しいことにチャレンジ出来なかったり利用者のご家族も高齢になるまで抱え込んでしまっているケースが多い。

IHを良いきっかけにして当GHで安心して暮らせる環境を整え、第2、第3のGHを開設し多くの利用者が自分らしく生活していければ良いと願っている。

【所在地】 山口県山口市

【対象者】

身体障がい者、知的障がい者、発達障がい者、
重複障がい者

【日常の活動】

障害を持つ子供たちの放課後や長期の休み中の支援を行う。

- ・宿題の指導・見守り
- ・人との関わりについての支援
- ・余暇活動の支援
- ・基本的な生活習慣の習得についての支援

「トイレの改修工事」

【助成額】 80万円

実施目的

トイレ2つの改修工事

施設内にあるトイレの内、一つは和式タイプで段差がある。また、トイレまでは土間があるため靴を履いていく必要がある。利用者によっては装具が必要か方もいるので大変不便である。もう一つのトイレは、以前アパートだった部分を改修して支援スペースとして使用しているため、ユニットバスのトイレをそのまま使用している。狭いうえに入り口には段差があり使いづらい。また、水漏れ箇所があることや詰まりやすいこともあり非常に使いづらい状況である。改修工事を行うことでみんなが使いやすいトイレにする必要がある。

実施内容

2つのトイレの改修

改修内容

1. 土間の撤去、および和式トイレ部分の段差をなくし、様式トイレに変更
 2. ユニットバスを解体、および出入り口の段差を撤去し、新しいトイレを設置
- 上記1. 及び2. を設置するために以下の工程で作業を行う。
- ① おおいちフォア・アスの責任者が現状の問題や不便な点を確認して、理事長に報告する。
 - ② おおいちフォア・アスの責任者と理事長で、問題点の確認と改善内容を検討し決定する。
 - ③ 理事長が、業者に改善の内容を伝え、見積依頼を行う。
 - ④ 業者が、現地確認を行い見積及び工事工程と資材明細を作成し理事長に提出する。
 - ⑤ おおいちフォア・アスの責任者と理事長が内容を確認し工事依頼を行う。
 - ⑥ 事業所内への周知（安全確保のため）をおおいちフォア・アスの責任者が行う。
 - ⑦ 業者が工事を施工する。
 - ・土間の撤去、および和式トイレ部分の段差をなくし、様式トイレに変更
 - ・ユニットバスを解体、および出入り口の段差を撤去し、新しいトイレを設置
 - ⑧ 工事確認を行う。
 - ⑨ 受け渡し検査を業者と理事長で行う。
 - ⑩ 支払額を業者が申請する。
 - ⑪ 法人が支払を行う。

得られた 効果

二つのトイレを改修することで、以下の効果を得る事ができる。

- ① 段差が解消され、装具が必要な利用者もトイレの利用が簡便になり、更に安全性も確保できる。
- ② 和式トイレについては、低学年の児童が、抵抗なくトイレの利用ができ、更に安全性も確保できる。
- ③ 利用者を介助する職員が介助しやすくなる。更に安全性も確保できる。
- ④ 清掃し易くなり、衛生的に使用できる。
- ⑤ トイレが綺麗になることで職員の支援のモチベーションアップにも繋がる。

今後の 課題

障がいがあっても地域の中で当たり前暮らす社会、生活する場があり、支援する人がいる。それがごく自然に集まれば当たり前暮らせる地域になります。本人たちが社会人としての自立を目指し、自覚と誇りを持って生きるよう支援するための人員不足、時間不足、資金不足、他業種との連携不足、社会に啓発する発信力不足に課題を感じている。



株式会社福祉メイキングスタジオ

fukushi-umibe.com

【所在地】 山口県光市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者、その他

【日常の活動】

共生型多機能事業所として、就労支援B型・生活介護・地域密着型通所介護のサービスを行っています。障害の重さや加齢によって「働くこと」を諦めなければならなくなった人たちが、支援を受けながら働くことができます。

個人のやりたいことを「働くこと」結びつける事に特化した、従来にない新しい形の福祉サービスを目指しております。具体的には、決まった工程やノルマのない創作活動や、日常生活を撮影・画像編集などして発信しファンを増やしてファングッズ販売に繋がっています。

意思疎通の難しい重度障がいを持たれた利用者さんが店舗や道路で寝ころんでしまう事象を「問題行動」ではなく「魅力」として発信し、理解者や協力者だけでなくファンを獲得していく取り組みなどを行っています。彼をイラストにして起用した「寝ころびクッション」などを販売し、寝ころぶことが働くことになる仕組みを提供しています。他にも、外部のアーティストが施設内のサロンスペースで展示会などのイベントを開催し、そのPR活動や会場の整備なども利用者さんたちと一緒にやって売り上げの一部をマージンとして受け取っています。自分たちで作った商品の販売だけでなく、空間やコミュニティを販売するといった形態で、障害の重さに左右されない業務内容なども提案させていただいています。

「トイレの増設工事」

【助成額】 77万円

実施目的

持病の関係で頻回にトイレを利用される利用者さんが、迷惑をかけてしまう事を気にされ通所できない状態が続いていたため、トイレの増設を行うに至った。

実施内容

9/18 施工開始 配管工事から着手 9/19, 20床と壁ができる。

10/6 木板が貼られる。 10/9 便座が運び込まれる 10/13 壁の漆喰が塗られる

10/17 ドアが取り付けられる 10/21 無事に工事が終了し引き渡される。

得られた効果

該当利用者さんだけでなく、車いすで介助を受けるため長時間トイレを使われる利用者さんの心的負荷の軽減も成功しています。イベントなどで多くのお客さまが来場された際なども、スムーズにトイレの使用ができるためサービスの質も向上していると思われまます。

今後の 課題

設備が整い環境が改善された事で、イベントなどをこれまで以上に積極的に開催できるようになりましたが、集客力を上げるために知名度の向上が課題となってきます。他にもメディア関係者から注目されるような取り組みを行って、自分たち以外からの宣伝効果なども得られるよう努力していく必要があります。

個人に焦点の当たった企画だけでなく、外部の企業やアーティスト達と提携した企画なども計画していけたらと思います。



特定非営利活動法人 あさひ会

【所在地】 高知県高知市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

はばたき共同作業所は、重度の知的障害を併せ持つ自閉症スペクトラムやダウン症の方が多く利用しています。はばたき共同作業所では、4つの作業に取り組んでいます。

①菌床シイタケの栽培と販売、②下請け作業（菓子箱折り）、③農作業、④空き缶のリサイクルです。

①は、2020年秋から取り組んでいます。高知県東部の香北町菌床シイタケ組合から菌床を無償で提供していただき、ビニールハウスで栽培し、学校、官庁、知人などに販売しています。「菌床しいたけ」栽培では、ビニールハウスに入ると菌床からシイタケがニョキッと生えているのが分かり、「うわ-、できてる」という感じで重度の方も見分けが付き、とてもよい作業種だと思います。シイタケをはさみでやさしく切っかごに入れ、集積して袋に詰めます。一部は乾燥シイタケとして籠に並べます。これら一連の作業に利用者みんなが参加して活動しています。

②は、お菓子製造会社から請け負った菓子箱を組み立てる作業です。上蓋、底、中敷きと3種類のパーツを組み立てる作業です。これはなかなか難しくできる方も限られています。4名の女性の利用者が担当しています。

③は、農地を借りて野菜の栽培を行っています。一輪を使った土運びや雑草引き、野菜の収穫などを行っています。

④は、近隣の家庭からアルミ缶を無償で提供していただき、洗浄、つぶしの作業を行い、リサイクル業者に販売しています。

「ビニールハウス用エアコンの設置工事」

【助成額】 90万円

実施目的

はばたき共同作業所の授産収入は、2018年度は81.5万円、2019年度は76万円でした。2020

年秋から「菌床しいたけ栽培」に本格的に取り組むようになり

2022年度は160万円にまで伸ばすことができました。

今使っていないビニールハウスにエアコンを設置して

1年間通して栽培できる環境に整備することにより200万円以上に引き上げることは可能と考えます。2023年10月現在で77万円

(2022年10月45万円)

実施内容

- ①10月10日エアコン、電気線工事の再見積り依頼
- ②10月13日発注
- ③10月18日エアコンの設置工事



- ④11月2日電気工事。(現在使っているハウス用電源に、
もう一つ高圧電源用のケーブルを引いてコンセントを付けます。室外機とハウス内のエアコンをつなぐ。)
- ⑤11月8日電気工事代支払い ⑥11月15日エアコンの試運転と引継ぎ
- ⑦11月29日エアコン代金支払い
- 中低温エアコン(LSDYP5F天井吊ダクト形)を購入し、菌床しいたけ栽培用のビニールハウスに設置した。
合わせて、エアコン用の電気工事を行った。

得られた 効果

2021年度の「菌床しいたけ栽培」で得られた収入は109万円でした。2022年度は115万円でした。2023年度は10月末段階で77万円です。これから寒い季節になり鍋物などでの需要も高まるので1棟のハウスでも130万円の売り上げは可能とみています。それに新しいビニールハウスでの栽培ができるようになると30万円の増収が見込めます。そのことにより利用者の月額平均工賃も現在13000円ですが、15000円に引きあげることができると思います。

今後の 課題

- ①販路の拡大やイベントへの参加を増やし、授産収入の増収を図り、利用者の工賃引き上げを図ること。
- ②地域で生活を希望する障害者の受け皿になること。具体的には、希望する利用者の受け入れを行うこと。

【所在地】 宮城県石巻市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者

【日常の活動】

- ・パン菓子製造販売
- ・カフェ運営
- ・お惣菜、お弁当製造販売
- ・生協内テナント店舗運営
- ・軽作業（ダンボール組み立て、箱折り、請負受注作業など）

「業務用冷凍庫の導入」

【助成額】 48万円

実施目的

業務用冷凍庫導入で工賃アップを目指したい

実施内容

◇物品購入

物品名：4枚扉業務用冷凍庫 1台購入

使用頻度：毎日

どのように使用しているのか：主に菓子の材料（スポンジケーキ、チーズケーキ、ガトーショコラなど）を冷凍保存している。これまで冷凍保存する場所が少なかったため週1回程度しか製造が出来ず、常に売り切れる状態であったが冷凍庫を導入する事で製造数を増やす事が出来、販売数増も望める。

得られた効果

製造量を増やせることで販路を拡大し、工賃向上をしていきたい。

今後の課題

今後の課題として一定期間就労支援を受けた利用者さんのステップアップの機会を後押しする取り組みを充実させていきたい。毎年1名以上の一般就労及びステップアップを目標にしていきたい。



特定非営利活動法人自立支援ネット我孫子

<http://www.jsnet-abiko.com/>

【所在地】 千葉県我孫子市 【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者

【日常の活動】

個々の利用目的に合わせて「通所」「訪問」「相談」と多岐に渡りサービスを提供しています。

《生産活動》生産活動（内職、布草履制作）、公園清掃

《訪問訓練》社会適応訓練（同行訓練、体調管理等）

《居場所の提供》様々な障害により生活のしづらさをお持ちの方にゆったりと過ごす場を提供

《日常生活相談》月1回：臨床心理士による相談

《行事》食事会（4ヶ月に1回）、クリスマス会、初詣、地域行事参加

「施設移転に伴う物品の購入」

【助成額】 100万円

実施目的

地域活動支援センターステップの施設移転に伴い備品を購入します。

実施内容

令和5年5月に、地域活動支援センターステップ事業は移転し、新しい実施場所では障害福祉サービスの入口として機能するため「作業訓練（作業室）」「相談（多目的室）」「居場所」の3つの機能を1ヶ所でサービス提供出来るように下記備品を購入し室内環境を整えていきます。

■ パーテーションの購入（木目調 AP パーテーション×8枚 他）

《内容》

新しい実施場所は間仕切り壁もないワンフロアのため、「作業訓練（作業室）」「相談（多目的室）」「居場所」の区画を整備。

《使用頻度》

- ・週4日程度。

■ テーブルの購入（BA-6KV×2台、BA-4KV×10台、TGS-7575×3台、TGS-1575×1台）

《内容》

- ・作業室：布草履作業と内職作業に使用。
- ・多目的室：相談、個別作業、静養室の多用途で使用。
- ・居場所：作業が難しい方に対してテーブルを設置。

《使用頻度》

- ・週4日程度。



■ ミーティングチェアの購入 (EZ15-SNC123BK2×6 脚)

《内容》

- ・多目的室：移転先でミーティングチェアを設置。

《使用頻度》

- ・週 4 日程度。

得られた
効果



■ 利用者様に対してサービス付加価値向上

新しい実施場所で、「作業訓練（作業室）」「相談（多目的室）」「居場所」の3つの機能を1ヶ所に整備したことにより利用者様に対してサービスの付加価値向上に繋がっています。

■ 段階的な支援の提供

利用者様の課題に応じて「居場所」から「作業訓練（作業室）」と段階的な支援の提供が可能なり、新しい実施場所で一貫したサービス提供が可能になります。

今後の
課題

■ 関係機関への周知

課題として移転後間もないため関係機関に対して周知が課題です。



<https://www.hachimitu83.com/>

【所在地】 千葉県四街道市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

私たちは、四街道市やその近隣地域で暮らしている、知的に障がいがある方たちの日中活動の場を創り（生活介護事業）、障がいがあっても、「地域で・普通の・人としての・生活を」送ることができるように支援しております。利用者の生活を豊かにしていくだけに留まらず、地域も一緒に豊かになっていくことが地域福祉、社会福祉であると考え、「地域の中で・地域のために・地域に必要とさせる（愛される）施設」を目指して、日々地域に根ざした活動を展開しております。具体的には、生産活動として、木工製品づくり、織物製品づくり、清掃作業などを行っております。木工製品は、市内の木材を使って製品化するなど、地産地消にこだわって作っております。また、清掃は主に公園などの除草作業を行っております。また、日中活動の中で、ホーム活動として創作活動や音楽レクリエーション活動などをおこなっております。ホーム活動の中では、毎週ボランティア活動を行っており、地域に根ざした活動も継続して行っております。

「災害用物資保管の物置の購入」

【助成額】 36万円

実施目的

災害時に使用する毛布や水、食料品、発電機、燃料を保管するため。

実施内容

- ・タクボ物置 ND-5019D の購入
当法人敷地内に福祉避難所関係の備品・備蓄食・発電機を保管するため、物置を設置した。

得られた効果

- ・災害用物資を適切に保管し、必要時に職員が速やかに使用できる。
- ・施設建物が被災した時でも、屋外に保管することで避難者の支援がつづけられる。
- ・専用の保管場所が確保出来、より多くの物資が備蓄可能になった。

今後の課題

- ・本事業では、四街道市との福祉避難所協定による防災体制の充実が図れたと考えております。
- ・今後も利用者さんやご家族、地域の方々と協力して、どんな時でも安心できる場所を目指して整備運営を行っていく所存です。



長岡市障害者施設ふれあい委員会

<http://caferiran.info/>

【所在地】 新潟県長岡市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- ・市内の障害者就労支援施設等 8 施設、市立高等総合支援学校が日替わり当番でカフェ営業を通じた就労実習を行う。
- ・参加施設で作られたパンやお菓子の販売、ドリンクの調理、会計を含めた接客などの実習を行う。
- ・カフェ営業時間は平日の 11:30～14:00 (水曜日は 16:00 まで) 前後に開店準備、閉店の片付け作業を行う。
- ・通常の営業以外にも、アオーレ長岡で開催されるイベントに合わせて臨時営業を行う。
- ・季節に合わせたドリンクやパン、お菓子を販売する。
- ・実習にあたっては、約 20 名のボランティアの方々から実習生の作業の補助に協力いただいている。

「製氷機の購入」

【助成額】 21 万円

実施目的

カフェのオープンから 10 年が経過し、当初、配備された製氷機は耐用年数を大きく経過し、庫内の金属メッキが剥がれて氷に付着するなどの不具合が多発しており、入替が必須な状況のため。

実施内容

◇キューブアイスメーカー（製氷機）IM-25M-2 の購入

店舗の一角に設置。製氷機で作られた氷を、カフェ調理する冷たい飲み物※に入れてお客様に提供する。

※令和 4 年度実績数量 1, 677 件

得られた効果

老朽化により衛生面でも不具合が発生していた製氷機の入替により、安全で安心なカフェの営業、そして営業を通じた障害者の就労実習の場づくり、さらには障害者支援のボランティア活動を継続できます。

今後もカフェの運営を通して、障害者の社会参加、就労支援の実現の場を図ります。ありがとうございました。

今後の課題

カフェ運営に係る財源は売上金のみで、実習生の工賃や運営経費に充てられています。

今後も活動を継続していくために安定した売上の確保が課題です。



特定非営利活動法人WHITE CANVAS

<https://npowhitecanvas.wixsite.com/love>

【所在地】 長野県安曇野市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

障害者総合支援法に基づく事業「生活介護事業所」TIME WARP 定員20名／一日利用平均6人
食事や排せつの介助などの日常動作の支援や医療ケアを行い、またものづくりや芸術活動を日中活動の中心として行っています。染織、刺繍、粘土造形、絵画、造形作品の制作と販売・展示を通して手厚い支援を必要とする方々が工賃を得るなどして社会参加の機会となることを目指して活動しています。

「陶芸機材の購入」

【助成額】 65万円

実施目的

これまでお借りしていた陶芸機材が使用困難になったため。重度の障がいのある方でも、やりがいを持って取り組み、売り上げに繋がりやすい陶芸作業を継続するため。

実施内容

陶芸窯、陶芸材料・道具購入

- ・小型灯油窯 RT-95 1台
- ・デジタル陶芸用温度計 1個
- ・熱電対 R 型 保護管 15mm 300mm 1個
- ・地震感知コンセント 卓上型 1台
- ・カーボランダム棚板 350*300*10mm 3個
- ・L 型支柱 30mm/60mm/90mm 各9個
- ・手ろくろ 2個
- ・成形小道具フルセット 3個
- ・流釉 18L 1個
- ・山吹トルコマット釉 2L 1個
- ・トルコ青マット釉 5L 1個
- ・並漉粘土 20kg 5個
- ・黒泥土 20kg 3個
- ・搬入設置費用 1式

事業所の離れのガレージに陶芸窯と道具一式を設置し、陶芸工房となりました。これから煙突を設置するためまだ窯を稼働できておりませんが、陶芸に興味のある障がいのある方が新規で見学にいらしたり、過去の作品を見た方から注文したいという声を早速頂き、利用者の皆さんの新たな居場所となったり、仕事となっていく予定です。利用者さん達が制作した作品を、一緒に火を入れ、焼き上げる経験ができることで新たなやりがいとなっていくことと感じています。今後、日常の作業として陶芸に取り組み、展示や販売を行っていく予定です。

得られた効果

- ・新たな利用希望の方の見学があった。
- ・制作の依頼があり、工賃に繋がる作業となる可能性が高まった。
- ・新しい作業に取り組みたい方の意欲を増加させている。
- ・ボランティアの方などが、焼成の手伝いの希望があり、地域との関りを生み出した。
- ・麻痺などの手足の不自由な方に新たな作業の可能性を与えている。



今後の 課題

- ・ 養護学校で陶芸を行う生徒さんがたくさんいらっしゃる一方、卒業後の就労場所としては陶芸の活動がある場所、仕事に繋がる場所が非常に少ない現状があります。彼らの力を活かして素敵な商品として社会に送り出し、工賃となったり作品となったり、受け取った方に喜びを与える商品づくりに活用していきたいと考えています。
- ・ 近隣の養護学校には美術の授業がありません。障がいのある方々が、ものづくりや芸術体験を行える場所として将来的にアトリエを開いていくこと、またそういったイベントを開催し、地域との交流の機会にも活用していきたいと考えています。
- ・ 車いすの利用者さんが増加しており、バリアフリーなアトリエにするための整備を整えていかなければならないという課題があります。



<https://sus-sup.com/>

【所在地】 岐阜県岐阜市

【対象者】 精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

就労移行

支援事業所ノックス岐阜では、精神疾患や発達障害の診断を受けた18歳～65歳の就労意欲のある方を対象に、就労支援を行っています。利用者様の多くは「働くことができない」と感じ、自信を失った状態で利用を開始されます。通所を通して、自分自身と向き合い、ステップアップをする中で自分らしさを取り戻し、「自分らしく働き続けること」が出来た利用者様から、ノックス岐阜を卒業されます。

事業所内の活動では、就労の基盤を整えるための就職準備プログラムを毎日提供しています。

職場の人間関係を円滑にするコミュニケーションスキルの獲得、作業を効率化させるパソコンスキルの習得、ビジネスマナー、面接や履歴書の準備講座も提供しています。

また事業所外では、利用者様の職場実習や企業面接の就職活動に同行する等、関係機関との調整を行い、就職前から就職後までサポートを行います。就職後には定期的に職場に訪問をして、利用者様と企業様の双方の意見を聞き取り、利用者様が自分らしく働き続けられる職場環境の整備を行います。

「IT 技能習得訓練実施に向けた PC 購入」

【助成額】 100万円

実施目的

事業所で使用しているノートパソコンの摩耗が激しく正常に作動しなくなっているため、パソコンの新規購入を行い、更なるIT技能のスキルアップを図りたい。

実施内容

ノートパソコン18台を新規購入。

■2023年11月

パソコンのスキルアップに特化した、個別指導プログラム「スキルアップトレーニング」を新規開講。

Eラーニングシステムを活用し、

Webデザインの学習ができるプログラムの提供を開始しました。

■2023年11月16日

ノートパソコン18台を新規購入し、納品完了。

<購入品詳細>

メーカー：HP社 品名：15 fc0 R5 7530U F/16/512S/W11H/NSV/mse7Z1J2PA AAAH

設置場所：利用者様がプログラム参加時以外にも自由に使用できるよう、パソコン専用棚に配置。

(当初の予定では、パソコンの購入は9月を予定しておりましたが、人員配置による担当者変更に伴い、予定よりも2か月ほど遅れての購入となりました)



■ 2023年 11月 27日

納品後は、利用者様にもお手伝いいただき、ノートパソコン全18台のセットアップを完了しました。セットアップが完了したパソコンから、さっそく使用開始しました。

新しいパソコンはスペックが高く、快適に使用できると利用者様からも好評です。スキルアップトレーニングの参加者が増え、トラブルが発生することなく利用できています。

■

2024年1月20日（到着予定）

「ライブラーニング®」を新規購入。

事業所全体のIT技能を向上させるため、利用者様だけでなく、支援員も学べる学習ラーニングプログラムを購入しました。

令和6年4月には、スキルアップトレーニングの内容を改良し、習熟度別に対応できるものとします。



得られた効果

利用者様の満足度と、モチベーションの向上。

・新しいパソコンを活用し、新たな講義を開講した新しいパソコンを活用し、新たな講義を開講したことで、パソコン使用に苦手意識のあった利用者様が、「せっかくだからやってみよう」と、取り組むきっかけになりました。

・パソコンの新規購入により、以前より開講している「PCPCトレーニング OfficeOffice」の参加者が平均平均 22～33 名程増加しました。

・パソコンの性能が高くなったことにより、効率良く作業できるようになりました。

・パソコンスキル向上により、利用者様の就労意欲の向上を感じます。IT技能保持者の就職は、就職先の企業様にとっても好影響を与えていると考えられます。

今後の課題

高度なIT技能に対応できる人材の育成、新規求人の開拓

事業所全体のIT機器の活用に対する意識が高まり、支援員にもITスキルの向上が求められています。利用者様の活用ニーズに対応できる対応力が必要となっているため、「ライブラーニング®」システムを購入・活用し、支援者のIT技能の向上を図ります。

ノックス岐阜を卒業した利用者様が、身に着けたパソコンスキルを活用できるような求人は、数が限られているのが現状です。一人でも多くの利用者様がパソコンスキルを活かせるよう、新たな求人の開拓にも力を入れていきたいと考えています。

【所在地】 岐阜県土岐市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

平成元年開所当初より通所授産施設として生産活動を主として運営して来ましたが、平成24年より障害福祉サービス事業所として生活介護と就労継続支援B型事業を多機能で行っています。

生活介護事業（定員35名）では、箱折等の受注作業を行う軽作業班、パンの製造・出荷を行うベーカリー焼成班、クッキー等を製造するベーカリー第二班、企業へ出掛けて作業を行うハウス班があり、就労継続支援B型事業（定員10名）としては、パンの成形を行うベーカリー成型班と企業内での作業を行う施設外活動班に分かれて、月曜日から金曜日と第2、4土曜日に運営をしています。

現在、生活介護では31名、就労継続支援B型で9名の方が利用されています。

「パン生地発酵機の購入」

【助成額】 100万円

実施目的

生産活動でのパン製造に係る発酵機の購入により、電気代、修理代といった経費削減を図るとともに安定した商品の提供による売上増加と利用者工賃向上に繋げることを目的としています。

実施内容

- ・パン生地発酵機（フクシマガリレイ BDX-236ST）の購入

①パンの質の向上

最新の機器の導入により明らかに発酵加減の違いが顕著となり、パンの見た目、食感、味の向上がみられた。

また、30年以上使用による老朽化で発酵機内の加湿器に不具合があり、パン生地が乾燥してしい発酵がうまくいかないことが度々あったが、新しい機器ではそのような不具合もなくパンそのものの品質向上に大きく繋がりました。

②コストの削減

現行の機器により、30年前と比較し電気代、水道代の節約や、故障や不具合といった場合の修理代が無くなり、経費の削減することが出来ました。

③お客様との信頼関係の向上

これまでも多くの団体様からの注文や一般のお客様から個々の注文など、様々なご依頼で商品の納品を行って来ました。せっかく注文をいただいても機械の不具合により、お断りしなければならないこともあり、ご迷惑をお掛けすることが度々ありました。今後はそのような場合での不安もなく注文に対応出来ることは、お客様との信用関係の向上や、継続的な購入に繋がっていくと思われれます。



得られた 効果

これまでの発酵機は平成3年3月より使用し、既に3年以上が経過しており今回導入した機器と比較すると電気・水道代といったコストの削減が見込めるようになりました。また、老朽化による機器の故障、水漏れといった不備の修理代や度々起こる超音波加湿器部分の不具合によるパン生地の発酵不良が、新しい機器の導入により解消されました。

今回導入したパン発酵機は上下2段独立方式となっている為、上下で全く違う使用が可能となりました。例えば上部でパン生地の発酵、下部にて冷凍保存等、活用方法に幅ができて作業効率も格段に良くなりました。合わせてパンの安定した品質の向上によりお客様から「美味しくなった。」とご好評をいただいております。売り上げも少しずつ伸びています。

今後の 課題

今回、助成いただき購入しましたパン発酵機により、安定的に良い生地の製造が可能となりましたので、今後は課題として、目玉となる商品の開発や更なる販路拡大、また原材料高騰に対する価格設定等に取り組んでいきたいと考えております。

特定非営利活動法人らいふくらうど

<https://lifecrowd.jimdo.com>

【所在地】 岐阜県山県市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、重症心身障がい者

【日常の活動】

2017. 11. 1 ゆう（山県市日中一時支援事業）開始

2018. 1. 1 ゆう（重症心身障害児 放課後等デイサービス事業）開始

2020. 4. 1 ゆう（山県市相談支援事業）開始

2021. 5. 1 ゆう（岐阜市日中一時支援事業）開始

2023. 12. 1 ゆう（生活介護事業）開始

「AEDの購入」

【助成額】 20万円

実施目的

AEDを置くことによって、ゆうに通って来ている利用者さんの急変時に対応することが出来ることが第一の目的です。さらに、AEDを置いてゆうで普通救命講習を開催するなどして地域の方々にも参加してもらう。他の団体（児童館など）の方との共同開催をするなどして地域での関係づくりのために役立てていきたいと考えています。また、地域の方々にゆうに行けばAEDがあることということ、看護師も常駐しているということを知ってもらい緊急時や災害時に頼って貰える場所になっていくことが出来ればと考えています。緊急時に頼れる場所と認識してもらうことで普段から気軽に立ち寄ってもらえる場所にもしていくため。

実施内容

女性金にてAEDを設置した後は以下のような活動を行いました。

令和5年10月14日 ゆう玄関にAED設置。近所の方へのお知らせを行いました。

*開所してないときは玄関の窓を割って使ってもらうように周知しました。

令和5年10月28日 ゆうスタッフ（6名）の救命入門コース受講実施。

令和5年12月20日 ゆう利用者の保護者（5名）との防災についての茶話会実施。

令和6年 2月28日 ゆうスタッフ、地域の方、他団体の方（計8名）と救命入門コース受講・防災についての茶話会実施。

*消防署の方からのアドバイスを受けて別紙日本救急医療財団全国AEDマップへの設置情報登録を行う

得られた効果

AEDを置くことによって、もちろんゆうに通って来ている利用者さんの安心、安全の確保が出来ました。また、地域の方々にゆうに行けばAEDがあることということ、看護師も常駐しているということを知ってもらうことで地域の方々の命を守る場所として認識していただくことが出来ました。さらに、普通救命講習を何度も行うことで地域の消防署との連携が深められました。

今後の 課題

救命講習を継続していくことでスタッフの救命技術と意識の向上を行いたいと考えています。
地域の方々、地域の団体とも救命講習と茶話会を継続的に行い顔の見える関係を構築して助け合える関係づくりを行っていきたいと考えています。。さらに、地域の方々、地域の団体と防災について具体的なアクションプランの作成なども行っていきたいと考えています。



【所在地】 静岡県浜松市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

視覚障害ゆえの困りごとを解決するべく、以下の訓練を行っています。

- ・ ICT訓練 …パソコンやスマホ、タブレットを音声機能や拡大機能を使い操作する訓練
- ・ 歩行訓練…屋外での単独歩行や買い物の練習、屋内での安全な移動の練習
- ・ 点字訓練…点字を指で読み、点字器を使い点字を打つ練習
- ・ 用具紹介…視覚障害者向けの福祉用具の紹介や使用体験

「視覚障害者向け ICT 訓練事業のための機器の購入」

【助成額】 78万円

実施目的

自立訓練の内容の充実、視覚障害者のQOLの向上

実施内容

- ・ 訓練用パソコンの購入
音声ソフトと拡大機能を使い、基本的な操作・インターネット検索・文書作成・表計算などの操作訓練を行う。日常的な使い方だけでなく就労に向けた訓練も行う。
- ・ 遮光眼鏡の購入
少しの光で強いまぶしさを感じる弱視の方を対象に、購入する前の体験用として使用。
- ・ ルーペー式の購入
文字などを拡大することで見えやすくなる弱視の方を対象に、購入する前の体験用として使用。
- ・ 拡大読書器の購入
同じく、文字などを拡大することで見えやすくなる弱視の方を対象に、購入する前の体験用として使用。
購入することで据え置き型が2台となり、購入する製品の選択肢が増えた。
- ・ 大型モニターの購入
文字などを拡大することで見えやすくなる弱視の方を対象に、訓練で使用。通常のモニターを使用するよりも目や首の負担が軽減できる。
- ・ 白黒反転プリンターの購入
黒字に白い文字の方が見えやすくなる弱視の方を対象に使用。テキストや事業所の案内の配布時に使用。



得られた効果

- ・ 訓練用パソコンの購入
パソコンの台数が増えたことで同時に複数の利用者の訓練ができる。
- ・ 遮光眼鏡、ルーペー式、拡大読書器の購入
上記の用具を購入する際、実際の物で体験ができるようになり、当事者が安心して購入できるようになった。
- ・ 大型モニターの購入
パソコン訓練時、利用者の目や首への負担が軽減された。
- ・ 白黒反転プリンターの購入
紙の配布物を配布する際、弱視者への配慮ができるようになった。



今後の課題

- ・ 開所してからまだ1年ということもあり、職員の知識・経験不足があり十分な生活訓練ができているとは言えない。他施設へ研修に行くなどして職員のスキルアップが必要。
- ・ 現状行っている訓練は1対1の個別訓練のみなので、今後は集団訓練も計画し、利用者同士の交流がきるような仕組みを作りたい。
- ・ 現状の利用数では経営的に厳しい状況なので利用数を増やす必要がある。

一般社団法人障がい者みらい創造センター

<https://mirasen.org>

【所在地】 愛知県名古屋市

【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

就労継続支援B型事業所で毎日10名程度の知的障がい利用者様の就労支援をしております。利用者様には今回、助成していただきました喫茶店『店員が気まぐれなカフェドモア』の運営と自社商品の製造・販売を行っていただいております。

店員が気まぐれなカフェドモアは地域の喫茶店として月～金曜日に通常営業と土曜日に貸し切り営業を行い、利用者様には調理や接客、掃除、食器洗い等衛生に関わる業務をしていただいております。お客様にはモーニング、ランチ、デザート、ドリンク、軽食等を提供しています。

自社商品はドリップコーヒーやティーバックの紅茶と日本茶を加工して障害者アートのパッケージも製作していただき、販売をしています。パッケージの絵を描くことやティーバックを数えて小分けすること、箱折りや梱包等の作業を分担して行っております。

「厨房機器の購入」

【助成額】 81万円

実施目的

利用者様の工賃向上と働きやすくするための備品の購入や環境整備
喫茶店のお客様により安心安全な商品を提供する

実施内容

◇物品購入

①炊飯器 SR-HX18VC-S の購入と設置

喫茶店営業時に提供するランチや軽食に使用のご飯を毎日炊いている。ガス炊飯器から電気炊飯器に変わったことで利用者様のみでご飯を炊けるようになった。

②キューブアイスメーカー(製氷機) IM-75TM-1 の購入と設置

毎日利用し、お客様に提供のお水やドリンク、調理時に使用している。

③バックシェルフ 900*250 の購入と設置

棚が増えたことで毎日の調理に必要なものが一か所で揃うようになった。

④キッチンエイドの購入

パンやデザートを手軽に製造できるようになった。

⑤浄水器 NFX-MC

浄水器がなかったので設置したため、美味しいお水を提供できるようになった。

⑥ペーパータオルホルダーPEPER-ISM TYPE

ペーパーホルダーがなく、水道において使っていたため壁に設置した。厨房に入る度に必要となる手洗い時に毎回使用している。



②③⑤⑥については設置工事をしている。①②については古い備品を撤去している。
全ての備品について運搬料と設置料が発生している。

得られた 効果

- ①ガス式炊飯器を電気式炊飯器に変えたことで利用者様だけで安全に毎日のご飯を炊くことができるようになりました。保温もできるようになったため、オペレーションが早くなりました。
- ②製氷機が変わったことで水漏れが改善し、床が滑りにくくなりました。また氷の臭いや味も変わり、安心安全な氷を提供することができるようになりました。
- ③棚が増えたことにより整理整頓がうまくいき、利用者様にとってどこになにがあるか分かりやすくなったのと、調理するものにより保管場所を変えたので在庫管理もできるようになりました。
- ④キッチンエイドを購入したことでパンやお菓子の製造が簡単になり、新商品を提供できるようになりました。また日替わりデザートも販売することができるようになりました。
- ⑤浄水器の設置により塩素を取り除いた美味しいお水を提供できるようになり、お客様にも喜ばれています。
- ⑥手洗い場にペーパーホルダーを設置したことで利用者様が一人でも使用しやすくなり、より衛生に気をつけて業務に取り組むことができるようになりました。

上記の様に喫茶店の厨房内が変わったことで働く環境が改善し、利用者様がより働きやすくなったことと備品が新しくなったことで利用者様のモチベーションも上がっています。新商品も増えたので売上にもいい影響が出てきそうでとても楽しみです。

今後の 課題

厨房の環境が変わったことで提供できるメニューが増えたことと、オペレーションが早くなったことでより多くのお客様の利用が可能になりました。そのため集客を強化していき、売上と利益を増やしていくことが次なる課題となります。

現状はメディアへのアプローチと新メニューを知って頂くためのプレスリリースの準備をしております。現状、時給300円しか払えていないため売上アップをして時給を高くしていきたいです。



【所在地】 京都市伏見区

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

障害者総合支援法に基づく、就労継続支援B型事業所として、以下の事業を実施している。

- ・ 祝箸袋、和雑貨などの製作・ カフェの運営・ 製菓・ 出店販売・ DM発送準備作業・ 花壇管理
- ・ 清掃・ ポスティング・ 畑作業 など

「焼き菓子製品袋詰め用シーラーの購入」

【助成額】 18万円

実施目的

当事業所では、パウンドケーキやクッキーといった焼き菓子を製造、販売しており、利用者工賃の貴重な財源となっている。焼き菓子製品の品質保持のために、脱気シーラーを購入した。

実施内容

脱気シーラー（FUJI IMPULSE V-301）の購入

製造したパウンドケーキ、マドレーヌ、クッキー、フロランタン、ブラウニーを袋詰めする際に、密閉するためにシーラーを使用している。1日あたり100～150個。また、カットする前のパウンドを脱気シーラーして冷凍保存している。

これまで故障により脱気機能が使えなかったが、今回の購入により、脱気機能を使用し、より良い状態で品質保持ができるようになった。従来は、劣化したシーラーを職員が注意しながら扱っていたが、今ではシーラー作業のスピードが向上し効率的になった。安心してシーラー作業を行えるようになったため、利用者にも担っていただけるようになり、利用者の作業の幅が広がった。利用者へのボーナス支給を目的に、毎年夏季（6月中旬から7月中旬）と冬季（10月中旬から11月中旬）には、カタログ販売を実施し、そこでは期間限定の焼き菓子やパウンドの一本売りも扱い、注文が集中する中で、安定した性能の脱気シーラーによる作業効率や品質保持の面での改善が期待される。



得られた 効果

- ・ 安定した性能による作業効率の改善・ 製品の品質保持、衛生面の向上・
利用者の作業量の確保（担っていただけの作業工程が増えることで、やりがいの向上にもつながる）

今後の 課題

利用者が働くことを通じて、やりがいや達成感をもてる充実した生活を実現していただくために、工賃UPを図らなければならない。そのために、授産の売り上げをいかに増やすかが課題である。焼き菓子製造の作業効率が上がったことで、今後は販路の拡大に力を入れていきたいと考えている。ご協力いただける機会がありましたら誠に幸いです。

【所在地】 兵庫県神戸市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

現在はリネンクリーニングをメインの仕事として行っており、そこからモップ・マットの洗浄加工やユニフォーム類の洗浄加工などを行っています。また企業からの職業実習も兼ねた施設の清掃活動などの施設外就労も引き受けています。

「作業場のエアコン設置工事」

【助成額】 79万円

実施目的

加古川事業所のメイン作業場であるリネン作業場にある壊れかけの空調機を入れ替え、作業場の作業環境の改善を行うことを目的とする

実施内容

ダイキン製のエアコンを購入・設置しました。
リネン作業場の作業環境が向上し、残暑の中でも快適な環境で作業ができるようになりました。

得られた効果

前に設置されていた空調機はほぼ動かなくなりつつあったため、スポットクーラーや窓を開けてサーキュレーションしたりしてしのいでいました。これは外部からの虫の侵入などによる異物混入にもつながるところではありましたが作業中の環境のためには仕方がないとして今まで作業していました。助成の決定を受けてすぐさま工事にかかってもらった結果、現在は窓を閉めて作業をしても快適な作業環境になり、衛生面でも作業面でも向上がありました。

今後の課題

今まで作業場の環境を理由に利用を断られていたところもあったので、今回の事業によって改善された環境で利用者の獲得につなげていきたい。



特定非営利活動法人そら

【所在地】 兵庫県豊岡市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

チーズケーキ・パン・ドライフルーツ・クッキーの作成・販売、デイサービスの清掃、内職（プラスチック製品のバリ取り、ランドセルの部品加工、海苔の梱包、パンフレットの折込）、レクリエーション（スポーツチャレンジ大会、クリスマス会等季節行事）

「除雪機の購入」

【助成額】 47万円

実施目的

但馬という地域柄、冬期の積雪が多く、職員による手作業での除雪では限界があります。除雪作業に大変時間をとり、安全面の確保も万全ではない等、積雪による問題を多く抱えているため、除雪機を購入させて頂き、安心・安全に通所していただけるように環境を整えるため。

実施内容

◇物品購入 R5. 12. 12

除雪機 1台 ヤンマー小型除雪機 JS1071C, R 納品

冬季 積雪時に使用



得られた効果

朝の除雪はとても時間がかかり、送迎車を出すだけでも一苦労しており、また支援中に除雪が出来なくて困っていましたが、今回除雪機を導入させていただいたため、送迎車の運行もスムーズに進み、利用者の方も施設に足を運びやすくなりました。また、除雪の時間が大変短縮され時間・体力にも余裕ができ、充実した支援に繋がっております。

今後の課題

特になし



特定非営利活動法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク

http://www.kounotori-inochinet.com

【所在地】 兵庫県豊岡市

【対象者】

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者、ひきこもり

【日常の活動】

就労継続支援B 型事業 週6日（月～土）開所 一日平均利用19.3 人（令和6年1月）

- ・ひきこもり支援団体「ドーナツの会」の相談・居場所の活動を出発点として、「働きたい」という若者の声に応え、就労継続支援B 型『ドーナツワークス』を運営する。
- ・工場から委託を受けた工業部品の組み立て・検品等の室内作業、野菜や果樹、シイタケ栽培等の畑仕事、焼き菓子作り、野菜・焼き菓子販売（JA や地域販売）、駅や公園の清掃・草刈り作業、田んぼの草刈り作業、除雪作業等の多様な仕事（心のケアワーク）を提供し、利用者への体験の機会を提供する。
- ・また、昨年9月より、IT 専門員を職業指導員として配置して、ホームページ作成やパンフレット制作等のIT 関連の仕事の受注を行い、パソコンを使ったIT による仕事のスキル習得にも取り組み始めている。
- ・毎週土曜日は、季節行事やカフェ、お出かけ等のレクリエーション、学習会（ドーナツまなびー）を開催し、利用者同士の仲間づくり、学び直しの取り組みを行い、利用者の成長を働きかけている。

「除雪機の購入」

【助成額】 61万円

実施目的

個人医院からの請負の除雪作業、自法人の農園の除雪作業を人力で行ってきたが、利用者やスタッフの負担が大きい。そのため除雪機を導入して、除雪時間を短縮し、身体的な負担軽減と、除雪の精度をより高めることとする。また、除雪機を使って、地域の中の除雪が行き届きにくい場所の除雪ボランティアを行い、利用者の自己有用感を高める。

実施内容

◇物品購入

除雪機（ホンダ HSM1380IK1JN）の購入 1台

2023年12月25日、(株)山科ホンダより納品を受け、取り扱い説明を受ける。

2024年1月24日・25日の2日間、積雪が約60cmとなり、個人医院の除雪の請負作業にて、初めて除雪機を使用して除雪作業を行う。昨年までの人力だけの除雪作業に比べ、

作業時間が約1時間短縮でき、利用者の体の疲労度も少なくてよかった。また、農業用ハウス周辺の除雪作業も行うことができ、雪によりビニールハウスの倒壊を防ぐことができた。なお、除雪機を使用した除雪ボランティア活動は、大雪過ぎて通常業務に支障を来していた状況から、今回の積雪時には行えておらず、未だ実現していない。



得られた 効果

除雪機を購入できたおかげで、昨年までの人力による除雪作業に比べ、スムーズに、より精度の高い除雪作業をおこなうことができ、かつ作業時間も約1時間短縮することができた。おかげで利用者の体の疲労度も少なくすることができた。

除雪機を使用した精度の高い除雪を行えたおかげで、個人医院からは患者さんの車が止めやすいと大変喜ばれた。また、除雪機を使用している除雪のため、昨年に比べ除雪費用を割り増ししていただくことができ、利用者の工賃収入向上につながった。

また、農業用ハウス周辺の除雪作業も行うことができ、雪によるビニールハウスの倒壊を防ぐことができた。

今後の 課題

除雪機を使用した除雪ボランティア活動は、大雪過ぎて通常業務に支障を来していた状況から、今回の積雪時には行えていない。今後、日頃お世話になっている事業所の所在地の地区等の住民への助け合い活動として除雪を利用者とともにやりたい。活動を通じて利用者の自己有用感を高め、利用者の更なるステップアップを図っていく。



【所在地】 兵庫県赤穂市

【対象者】

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者

【日常の活動】

製菓の自主製品の製造・販売及び西播磨・東備地域の企業からの受託受注業務を通じて、障がい者の就労の機会や生産活動その他の機会を提供しています。また、敷地内で喫茶店「MOMO」を営業し、その食材の一部は敷地内の畑で栽培したものを利用するなど、障がい者の就労機会と地域の方々との交流促進に取り組んでいます。さらに、地域の農家との農福連携事業にも取り組んでいます。

「業務用台付冷蔵庫の購入」

【助成額】 56万円

実施目的

経年劣化による不具合が出ている、既存の冷蔵庫の買替

実施内容

Panasonic 台下冷凍庫 SUF-K1871CB を購入し、既存の冷凍庫と交換いたしました。

得られた効果

これまでの冷凍庫はバッテリーの劣化によって、突然冷気が漏れる、冷凍機能が止まるといった不具合がありましたが、そのような心配をすることなく、安心してクッキーやケーキの製造を行うことができます。

今後の課題

新型コロナウイルスによって中止となっていた地域のイベントや、新たに企画されたイベントが秋から開催されます。イベントに向けて沢山のクッキーやケーキを製造するため、本事業にて購入した冷凍庫を活用していきたいと考えています。



【所在地】 兵庫県高砂市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

高砂市内の視覚障がい者に対して点訳を中心にサポートを実施している。

【点訳】

- ・ 定期刊行物として、救急医のお知らせ、社協だより、Vかわら版、カレンダー、JR・山陽電車時刻表、障害者団体の総会資料、プロ野球選手名鑑など
- ・ 不定期刊行物として行政関係資料、新聞小説・記事、各種行事案内、単行本など。
- ・ 視覚障がい者3名点字習得介助、パソコン指導
- ・ 上記の一部はサピエ等を通じて電子データを登録、配布 ・ 市内小学校に通学する全盲児童の副教材作成

【参加行事】 社協フェア、高砂V 連行事、視障協の総会介助、点V連（神戸）の行事など

【その他】 選挙投票票墨訳、高砂市内小中学校点字体験教室、社協主催点訳講習会講師、視覚障がい者字習得介助、パソコン指導、スマホ指導、生活支援用具のアドバイス

「触図プリンターの購入」

【助成額】 57万円

実施目的

市内居住の200名を越える視覚障がい者に、点訳を中心とする当団体の支援活動を周知広報し、ユーザを拡大することで、より多くの視覚障がい者の生活の質を高める。また点訳物の質の向上と、併せてボランティアの拡充を図ることを目的とする。

実施内容

◇触図プリンター購入

- ・ Sinka 社製 Easytactix を選定して購入し印刷方法の習得を行った。
- ・ 同プリンターは、専用の用紙を用いることでインクジェットプリンター唐でカラー印刷したものに、点字の凸印刷と立体形状の作成が可能。このため晴眼者と視覚障がい者いずれもが読むことが出来る文書を容易に作成できるのが特長。
- ・ 専用の立体用紙を用いると視覚障がい者用の触図、点字文書を作成することも容易。

◇2024年度点字カレンダー表紙の作成と配布

- ・ 市内視覚障がい者向けの点字カレンダーの表紙を触図プリンターで作成して配布した。活字と同じ内容を点字で印刷している。また龍を立体化しており視覚障がい者でも形を把握できる。
- ・ 従来の点字のみのカレンダーでは、視覚障がい者専用という印象で、視覚障がい者と晴眼者の間に完全な壁があったが、カラー触図を用いることで垣根を取り除くことが出来た。

◇単行本「帆神」の点訳版表紙の作成

- ・ 高砂六星会として点訳版を発行することとなった、河岡かおる著「帆神」について、同触図プリンターを用いて内表紙を作成した。活字と同じ内容を点字化すると共に、帆船と波を立体化し視覚障がい者にも把握でき

るようにした。この書籍のテーマである帆船と、帆を実感できるのは非常に意義がある。

◇全盲児童の教材作成

・高砂六星会では、2023年1月より、インクルーシブ教育として市内の普通校に通学する全盲児童の教材の作成を分担しサポートしている。作成する教材は、文章と図に大別され、前者は点字で提供するが、後者について従来は点図で作成して提供していたものを、今回の触図プリンターで作成することとした。両者を比較すると以下ようになる。

◇点図

全ての図形を点線で表現することになるため、視覚障がい者にとって図形の把握が難しい。時間制限があるテストでは大きな問題。ボランティア側にとっても作成に技量が必要で熟練者でも多大の時間を要する。

◇触図

視覚障がい者にとって点図に比較して読み取りやすく、短時間で正確に読み取れる。ボランティア側にとっても特殊な専用アプリでは無く、Powerpoint や Word など一般的なアプリで作成できるので、比較的短時間で作成できる。これにより、全盲児童が読み取ることに時間を費やすこと無く、深く考え学ぶことに専念でき、学習効果の向上につながると考えられる。

得られた効果

触図プリンターの購入による成果と効果

◇視覚障がい者、晴眼者ともに同じ文書で情報を受けとることが出来るバリアフリーな世界に貢献

(カラー印刷と点字、立体化を組み合わせられる触図プリンターによる効果)

◇視覚障がい者がより多くのモノの形状を理解できることに貢献

(従来の点図に比べて形状を把握しやすい触図を作成できる触図プリンターによる効果。)

◇インクルーシブ教育児童の学習効果向上への貢献

(晴眼者と同じ教科書、テスト問題を使用する必要があるインクルーシブ教育において、読み取りやすい図を効率的に作成できる触図プリンターの効果。)

今後の課題

触図プリンターの今後の展開

市内200人以上の視覚障がい者に、効果的に点字情報を提供するとともに、多くの晴眼者に点字への興味を与えてボランティア活動に参加して貰えるようにすることが課題。

◇青い鳥学級向けの案内、配付資料に触図プリンターの作成

視覚障がい者は勿論、関係者など晴眼者にも配布され広報効果が大きいので取り組みたい

※青い鳥学級は全国の各自治体で実施されている視覚障がい者向けの教育イベント。

◇点訳ボランティア募集チラシへの触図プリンターの活用

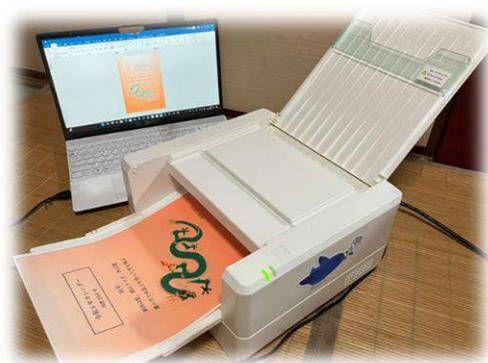
隔年で開催している点訳ボランティア養成講座のチラシを作成することで周知を図りたい

◇障がい福祉課、障害者基幹相談支援センター、社会福祉協議会へ触図プリンターの活用の働きかけ

・視覚障がい者と、その支援者に対して発信力のある、これら機関に触図プリンターの効用を紹介し、活用を働きかけることで、点字情報の周知を図りたい。

◇教材作成における活用の展開

・他市の団体にも紹介し、視覚障がい者向けの教材の質向上を図りたい



【所在地】 和歌山県和歌山市

【対象者】

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

障害者の就労移行支援に係る訓練を行っています。

紀三井寺競技場の清掃・事業所内清掃・協力企業へ赴いての作業参加・内職・リサイクルパソコンの請負作業・印刷物のデザイン業務、帳票やリスト作成・パソコン練習・情報処理検定、漢字検定に向けての練習・SST・コミュニケーションの基本学習・コグトレ・マナー指導・アンダーコントロール・ストレス対処・マナーセミナー・面接ロールプレイ・調理実習・防災訓練・課外活動・就職面接会への参加等。

「清掃用具の購入」

【助成額】 16万円

実施目的

当事業所では作業訓練のひとつとして毎朝近くの紀三井寺公園内の競技場とトイレの清掃を行っていますが、今ある掃除道具が使い込まれて劣化しているのと、参加人数に対して数が足りておらず、ボランティアで参加してくださる方々もいるとますます物資の不足が起き、それを解消したく、清掃用具の購入を希望しています。

また、例年清掃会社の方々を講師として招き、11の事業所、3つの支援学校にもお声掛けして清掃研修会を開催させていただいており、プロの方に教えてもらう機会を得てアビリンピックでは優秀な成績を修めた利用者の方もいますが、最低限準備すべき物資でのフォローが出来ないのは事業所としての弱点であると考えているので、掃除用具を購入することで解消出来れば懸念が減るだろうと期待しています。

実施内容

◇企画開催

研修実施内容予定

『清掃従事者研修カリキュラム』

監修：和歌山県ビルメンテナンス協会

実技の場所は、紀三井寺公園競技場玄関

【講習内容】

4/24(月) (講義) 清掃従事者としての心得、道具の名称について。

4/25(火) (実技) 清掃基礎(1)・実技指導、掃き拭き(ダスタークロス、除塵作業)。

4/26(水) (実技) 清掃基礎(1)・実践演習 掃き拭き、(水拭きモップ、机上清掃)。

5/ 8(月) (実技) 清掃基礎(2)実技指導・演習、窓清掃(スクイージー、シャンプー)

5/ 9(火) (実技) 清掃基礎(2)実技指導・演習、床清掃(掃除機)。

5/10(水) (実技) 清掃基礎まとめ、掃き拭き、アビリンピック課題演習：ダスターと水拭きモップ)。

5/22(月) (実技) 清掃基礎まとめ、アビリンピック大会ビルクリーニング競技の課題演習。

5/23(火) (実技) 清掃基礎まとめ、アビリンピック大会・ビルクリーニング競技の課題演習。

5/24(水) (実技) 清掃基礎・実技テスト、アビリンピック大会 ビルクリーニング競技の課題演習

※ただし、2023年、2024年は実施最低人数が集まらず、また、利用者においても通常の掃除をする者も

1, 2名程度と当事業所と契約するそもそもの人数が2023年9月以降集まらず、実施に至りませんでした。

◇物品購入

アビリンピック参加に向けた訓練として上記清掃研修と合わせて日常的に使用するため掃除道具を購入、主に紀三井寺競技場の清掃で活躍しました。

得られた 効果

清掃技術についてや、清掃道具の取り扱いについて利用者の皆さんに自信を持たせることが出来、心配りや気付きも含め、就職が決まってからも各企業で活躍出来ています。

アビリンピックには参加希望者が居なかったために赴くことが出来ませんでした。新しい掃除道具は現役利用者さんだけでなく、卒業しボランティアで来てくれていた方々にもとても好評で楽しそうでした。

今後の 課題

特になし

認定特定非営利活動法人十人十色

<http://juunintoiro.jp/>

【所在地】 鳥取県鳥取市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- ・ドライブレコーダーの部品組み立ての内職
- ・水稻栽培、米の販売
- ・らっきょうの根切り作業
- ・大豆栽培、加工(味噌づくり)、味噌販売
- ・柿の皮むき作業
- ・お守り作りの内職

「農作業機器の購入」

【助成額】 62万円

実施目的

農作業用の機械購入

実施内容



アイガモロボ1台、乗用溝切機・のるたん1台の購入

- ・アイガモロボは6月上旬の田植え後、一カ月程度水田にて運用。

太陽光発電で充電しつつ、水稻の苗が大きくなっていくまで除草作業を行う。

- ・乗用溝切機のるたんは7月下旬から8月中旬にかけて、水田の溝切作業に使用。

得られた効果

・アイガモロボは除草作業の効率化を期待しての導入であったが初めての運用ということもあり、必ずしも十分な威力を発揮したとは言い切れない結果となった。来年以降の運用に活かしたい。

・のるたんは従来の手押し式の溝切機と比較して乗用式の溝切機になったことで深く、しっかりとした溝切を行なえ、また使用者の負担、疲労も大幅に軽減された。従来より溝切の出来が良くなったことにより、稲刈り時の負担軽減や収穫した米の品質向上が期待できる。

今後の課題

農業機器の導入によりスマート農業を促進し、利用者やスタッフの負担を軽減する事で作業の効率化や収益の増加を目指したい。

特定非営利活動法人きらめき

【所在地】 鳥取県西伯郡

【対象者】 知的障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

・障がい者総合支援法に基づく事業

ストック作業所：就労支援B型/定員20名/一日平均利用者13名

農薬や化学肥料を使用しない農作物の生産・販売、豆腐・ジャム・ケチャップなど加工製造・販売

ストック作業所：就労支援A型/定員10名/一日平均利用者1名

原木シイタケの周年栽培、外部からの下請け農作業

「厨房機器の購入」

【助成額】 100万円

実施目的

事業売上の柱である豆腐事業で日常的に使用している蒸気ボイラーと製氷機の老朽化に伴い、安定的に豆腐事業を継続していくためそれらの設備の更新を行う

実施内容

サムソンボイラー及びチップアイス製氷機の購入

蒸気ボイラーは、衛生的に豆腐を作るために必要なもので、豆腐作り工程の一番初めに、全ての調理器具を高温の蒸気で消毒することに日常的に使用している。

さらに、加工品のトマトケチャップや各種ジャム作成する際、材料を長時間煮込むための回転大型鍋を加熱するためにも使用している。

チップアイス製氷機は、豆腐作りの「冷やし」の工程で、「ゆがき」後の豆腐を冷やすために、日常的に使用するチップ状の氷を作る機器で、いずれの機器も豆腐作りを安定的に継続するには必要不可欠なものである

得られた効果

ボイラーは、更新前は老朽化によるエラーが度々起こりそのたびに作業が中断していたが、更新によってスムーズな作業が行えるようになった。

製氷機も、更新によって氷の製造スピードがアップし効率的に作業が行えるようになった。

今後の課題

今回の設備更新によって、まずは豆腐事業を安定的に行っていく。さらに将来的には外部で行っている大豆の生産や加工を自分たちで行えるようにし、豆腐事業を社内で完結できるようにしていきたい。そうすることで、材料の仕入れの率を下げ、仮に同じ売上であっても利益率のアップに繋げていく。そして利益率の高くなった

豆腐の商品を、積極的に販売していくために、職員や利用者の人数を増やし、販売エリアの拡充し売上をアップさせ、全体の平均工賃を上げ、施設の安定的・継続的な運営につなげていきたい。



【所在地】 岡山県勝田郡

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

障害福祉サービス事業所きずなの就労継続支援B型では、障害者の社会的自立に向けて、しいたけ・きくらげ・ひらたけ・なめこ等の菌床栽培を行っている。これらの菌茸類は地域のスーパーや道の駅、学校や保育園等に販売をしている。また、生の菌茸類だけでなく、しいたけやきくらげを乾燥させた加工品も生産・出荷している。

「菌茸類乾燥機の設置工事」

【助成額】 100万円

実施目的

今まで使用してきた乾燥機は、購入後約20年が経過しており、経年劣化による故障が頻繁に起きており、安定的な商品供給に支障をきたしていたため。

実施内容

電気乾燥機大紀産業 E-30H-S の購入・設置とそれに伴う電源増設工事

2023年12月19日、(有) 栗井電気工事店により、乾燥機用の電源配線工事、主幹ブレーカ取替工事、電源改修工事等を行い、40Aの電源使用が可能となった。

2024年1月24日、(株) 北研西日本営業所を通し、(株) 大紀産業製の電気式乾燥機 E-30H-S を設置すると同時に、今まで使用してきた灯油式乾燥機を撤去(廃棄処分)した。またオプションとして、屋外排気ダクトを付け、稼働時の暖気や匂いを屋外へ排出できるようにした。

得られた効果

乾燥機が新しくなったことにより、機械の調子に左右されることがなくなり、乾燥しいたけの生産・出荷を安定して行うことができるようになった。また以前の乾燥機と比較して短時間で均一に乾燥できるようになったため、商品の見栄えや質も良くなった。今まではタイマー機能がついていなかったため、職員の帰宅時にしいたけが半乾きの状態で乾燥機を止めて翌日にその続きを行っていたが、今回タイマー機能がついたため、その日のうちに乾燥を完了することができるようになった。また灯油式から電気式になったため、灯油を入れる手間も省けるようになった。

今後の課題

乾物の商品を安定して生産できるようになったため、今後は販路を拡大していくことで収益を増やし、利用者の工賃向上につなげていきたい。



【所在地】	山口県下関市	【対象者】	身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、 発達障がい者
【日常の活動】	障害福祉サービス事業（就労継続支援B型） 定員20名 登録者数24名 （生産活動）生産活動その他の活動の機会を提供し、就労に必要な知識及び能力の向上のための支援を行うことにより、働くことへの自信と喜びにつなげる。 ・施設内作業：（株）長府製作所（住宅関連機器の部品の組立て）（株）ほんぼ（昆布の計量、袋詰め） など ・施設外就労：下関市指定喫煙場所灰皿清掃、下関市公共職業安定所・下関市労働基準監督署のトイレ清掃 アパート清掃、草刈り作業 など （演芸活動）「えのうら一座」利用者有志による出張落語 （生活支援）日々の就労活動を円滑に行うための、日常生活における健康・衛生面の指導や、基本的な社会性が身につくように支援を行う。 ・健康チェック ・季節ごとの衣服の調整、衛生指導 ・相談支援		

「作業場の作業台、棚の設置工事」

【助成額】 100万円

実施目的

利用者ひとりひとりに十分なスペースが確保でき、車椅子を使用している利用者も作業しやすい作業台を新たに設置、また、重たい資材を上げ下ろしする時の腰への負担を軽減するために背の低い棚を新たに設置することで、利用者が作業を行う上での安全性の確保や作業効率の向上など、作業環境を改善することを目的としています。

実施内容

- ◇物品購入 作業台 サカエ KS-097S 計量作業台 KS タイプ2 5台 購入
作業場に設置し、利用者の日々の作業に使用しています。
- 棚 サカエ NEW-8544 中軽量棚 NEW 型単体（200 kg/段・H120）9台
サカエ NEW-8544R 中軽量棚 NEW 連結型（200 kg/段・H120）5台 購入
作業場に設置し、利用者の日々の作業に必要な資材の収納棚として使用しています。
- ◇工事 作業台、棚の組立・搬入・設置

得られた効果

- （作業台）
・作業に必要なひとりひとりのスペースを確保することができ、利用者の皆さんから作業がしやすい、と喜ばれました。

- ・作業の内容や利用者の特性に応じたレイアウトの変更も可能になりました。
 - ・作業台の下に車椅子が入れるようになり、今までよりも作業がしやすくなりました。
- (棚)
- ・低い棚を設置したことで、重たい資材が入った箱を出し入れしやすくなり、腰への負担が減りました。

今後の 課題

3月25日から移転先の事業所で活動を開始し、新たな場所での「地域とともに」を実現するために、地域に開かれた事業所運営を行っていくことが課題です。そのひとつとして、地域の子供たちに事業所の一部を開放して放課後の居場所として過ごしてもらったり、地域の方々に参加していただけるような行事を考えて取り組んでいきたいと思ひます。



【所在地】 山口県山口市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

多機能事業所るりワークスは、宿泊型自立訓練事業と就労継続B型事業を行っています。

就労継続B型事業では、主に農業や園芸、市や民間企業から委託された清掃や公園管理などを行っています。

るりワークスの農業活動は、ほぼ毎日活動しています。具体的には農福連携を主な活動テーマとしています。

地域の農家さんの所に出向いて、毎週3日程度は農作業を手伝っています。また事業所内でジャンボピーマンのハウス栽培や事業所周辺の農作地で白ネギを生産しています。園芸作業は、イベントや地域で寄せ植え講習会を開催したり、寄せ植えプランターを生産し地域の道の駅などで販売しています。市や企業から委託された清掃作業は、主に公園清掃や公園管理、会社の事務所清掃を毎週各3日程度行っています。

るりワークスがある鑄銭司地区は、山口市内で人口の高齢者率が一番高い地域です。農業の担い手不足や高齢化で田畑管理が難しくなり、農地が荒れている現状があります。るりワークスは、白ネギとジャンボピーマンを主に生産しています。特に白ネギは、事業所周辺の農作放棄されていた田畑を活用しながら生産を行っています。

「農作業機器の購入」

【助成額】 35万円

実施目的

白ネギ栽培で使用するための歩行型トラクター（ネギ栽培用管理機）を購入する。

この機器を導入する事で、品質の良い白ネギの生産量や作業効率が上がる。それにより利用者さんの工賃アップや仕事へのやりがいに繋がる。

実施内容

ヤンマー管理機（YK750RK-K. AGENEGI1）の購入

白ネギ栽培に使用する歩行型トラクター（ネギ栽培用管理機）の購入。

毎年6月から3月まで白ネギ栽培を行う。

管理機を購入した10月から、白ネギの成長に合わせて、畑の畝を高くするために、ネギ栽培用管理機を使用しています。

得られた効果

白ネギ栽培を機械化することで、品質の良い白ネギが栽培できる。また、今まで手作業で行ってきたので、作業時間を短縮する事が出来るので、今後は白ネギの作付面積を大幅に増やすことが期待できる。

また、生産性があがれば事業所周辺は、過疎地域で農家の高齢化が進む地域でもあるので、休耕田の活用や地域交流のためにも、作付面積を広げていく事も検討できる。

今後の 課題

高齢化や農業を取り巻く環境の変化から、地域で農作放棄されている田畑が増えている。地域住民からそれらの農地をるりワークスで活用して欲しいという要望が多くある。白ネギ栽培地を増やしていけば、B型事業として利用者さんにより多くの工賃を支給する事が可能になる。同時に地域貢献として地域住民とのかかわりも増えていく。るりワークスと農家さんだけでなく、鑄銭司地区全体でこの活動を知ってもらいたいが、今はあまりその活動は知られていない。私たちの活動を知ってもらう為に、地域との交流会として白ネギの収穫時期に合わせて「収穫祭」を開催して、目に見えた形で、地域に発信していく活動を行っていきたい。



社会福祉法人ラーフ

http://shafuku-laugh.com

【所在地】 香川県観音寺市

【対象者】 精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

16歳以上の発達障害、または特性により生きづらさを抱える方に居場所を提供している。活動としては、地域において、自立した生活ができるように、創作的活動、レクレーション活動を行っている。

創作的活動・・・ワッフルの製造活動、うどん店の委託作業（商品の箱作り）、その他、内職などの生産活動
レクレーション活動・・・ソーシャルスキルトレーニング、しゃべり場、ゲーム大会、カラオケ、調理、
外食、季節に合わせた外出、ボランティア活動など

「障がい者食堂の環境整備」

【助成額】 25万円

実施目的

センターに通う障害のある方たちとともに、低価格で栄養バランスの取れた食事を提供することにより、地域の障がい者の方々が健康的な食生活を送れるようにする。また、調理に参加することで生活スキルの向上を目指す。

実施内容

地域に暮らす障害を持つ生活困窮者に栄養バランスに優れたお弁当や食事の場を提供する。お弁当の製造には当センターの利用者にも参加してもらい、自炊する力をつける。そのために以下のことを行った。

①店舗の改装

以前店舗で行っていたワッフルの製造・販売を原材料の高騰、人員の減少などの理由により中止したため看板を撤去した。

（現在はイベント時のみ製造）また、壁を撤去し、キッチンを広く使えるようにした。外からの視線が気にならないように、また事務机をとの間仕切りのためにロールカーテンを移動して設置した。

②冷蔵庫(MITSUBISHI パールホワイト MR-CX37H-W)の購入

食材を保管しておくために冷凍冷蔵庫を購入した。

当初金曜日の予定だったが、退職者が出たため人員不足となり、木曜日の開催とした。まずは生活困窮や、一人暮らしなどの

当センター利用契約者への提供を月1回から始め、今後、4月より法人内、地域へと徐々に広げ、月2回に増やしていく。

一人暮らしの利用者より交流の場としてイートインスペースの設置希望が出たため、その対応もしている。

・参加者

1月18日 4名 2月15日 6名 3月21日 3名



得られた効果

- ・店舗を広く使えるようになり、冷蔵庫を購入できたおかげで食材をたくさん保存できるようになった。
- ・お弁当の販売により、生活状態が良くない方へ野菜たっぷりの味噌汁やおにぎりを提供することができるようになった。店舗に来ることで安否確認ができたり、会話を楽しんだりしてもらえる。また、調理に参加してもらうことで多少なりとも自炊への興味を持ってもらえ、誰かの役に立っているという達成感を味わってもらえることが期待できる。
- ・余った食材の提供を受けることで、食品ロスの削減にも役立っている。

今後の課題

発達障害のある方は、その特性により、良好な人間関係の構築が難しい人が多い。さらに、自炊や金銭管理、身だしなみを整えることなども難しく、日常生活に困難を抱えており、就労に繋がりにくい。

当センターは、自由に過ごせる居場所として開設したものの、利用が長期にわたり、高齢化が進んでいる。親が高齢になり介護が必要になったり、親亡き後の心配をしているご家族もあるが、本人に困り感がなかったり環境の変化を恐れて動けない。

いずれひとりになった時に、自立した生活ができるように、生活スキルを身に付けていけるような取り組みをしていきたい。また、継続的に弁当を販売することで孤立することがないようつながりを持ち続けたい。ただ、慢性的に人員が不足しており、増やそうにも資金不足で難しいのが現状である。

社会福祉法人キャンバスの会

<http://canbasnokai.jp/>

【所在地】 宮崎県都城市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

就労継続支援A型(定員10名/B型(定員10名)の多機能事業所で、施設や企業、学校などに365日、3食配食を行っている。主に、高齢者施設、学校、保育所、拘置所や刑務所に納品し、また、注文を受けると、自衛隊や自治会などの行事の際にもお弁当を配達する。食材の調達から、加工、調理、配達、食器洗淨まで一連の作業を細分化し、事業所で就労する障がい者が多くの工程を担えるように工夫している。また、法人内の障がい福祉サービス事業所の昼食の調理も行っており、管理栄養士が献立を作り、健康に留意した食事を法人の福祉サービスの利用者、職員に提供している。

「冷凍冷蔵庫の購入」

【助成額】 62万円

実施目的

障がい者のできる作業を増やし、仕入れ単価を一定に保つことで、適正価格の高品質なお弁当を販売し、障がい者の賃金、工賃の減額を回避する。



実施内容

手作り加工品によるお弁当価格の適正化と利用者の賃金・工賃の維持・向上

◇物品購入

業務用冷凍庫(型番:HF-63AT-1)1台/業務用テーブル型冷蔵庫(型番:RT-180SDG-1)1台

事業所内でハンバーグハンバーグやとんかつ、メンチカツ、チキンカツなどを手作りするために仕入れたひき肉等の保存及び、それらを使用し手作りした加工品の保存。

得られた効果

メニューによって、毎日販売、提供する加工品を使用したお弁当の仕入れ原価を抑えることにより、一部メニューは販売価格の値上げをすることなく、就労継続支援利用者の賃金向上を達成することができた。

【A型利用者平均賃金】2022年度 91,072円 2023年度 95,743円(前年比105%)

今後の課題

直近2~3年、お弁当の仕入れ原価の高騰が継続しており、利益率の減少が続いている。今後も、利用者の賃金アップが十分に見込める状況ではない。今回取り組んだ加工品以外でも、事業所内で加工できる材料の種類を増やすことで、原価の値上りを最小限に抑える。また、今年度からは、ほとんどの取引先に対して販売価格の値上げを行いつつも、調理作業を細分化し、障がい者の請け負う業務の幅を広げることで、事業所で働く利用者の賃金、工賃の年2~3%の継続的な向上を目指す。

【所在地】 沖縄県那覇市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

(公的資金で実施する事業)

訪問看護、居宅介護、医療型短期入所、有床診療所、日中一時支援事業を行なっています。いずれも小児を専門で、人工呼吸器等の医療を必要とする重症度の高い子どもに特化して行なっています。診療所では、訪問診療も行なっており、お家で暮らす障がい児・医療的ケア児とその家族を総合的・複層的に支える活動をしています。

(公的補助を受けない事業)

公的資金では対象とならない、介護家族のQOLの向上、啓発活動などを、助成金や自己資金で行なっています。バリアフリー旅行支援、啓発シンポジウムや相談会イベントの開催など、障がい児者とその家族を支援するものの他に、家族を支える介護人材育成事業(喀痰吸引等研修)にも力を入れています。一昨年から始めた、入院する子どもに付き添う親御さんのためのお弁当配食プロジェクトは、病院だけでなく、地域の就労支援事業所とも協働して行なっており、これらの事業を通じて、多様な人たちが障がい児や医療的ケア児とその家族を支える地域社会づくりに取り組んでいます。

「研修用備品倉庫への除湿器の設置工事」

【助成額】 65万円

実施目的

障がい児者や高齢者の在宅生活を支える介護職員等を対象とする「喀痰吸引等研修」で使用する研修備品倉庫での、結露によるカビの発生を抑制し、大切な備品を保全し、研修を円滑に継続していくため

実施内容

◇工事

2023年8月28日 見積書を元に工事発注

2023年12月13日 除湿器入荷の連絡を受け、施工会議

2023年12月21日 除湿器設置工事1日目

2023年12月22日 除湿器設置工事2日目～工事完了

*設置機種 日立除湿器 小型天吊タイプ RK-NP12CV1 1台

*設置場所 Kukurut 1階 おきなわ医療的ケア研修センター 備品倉庫内

当初は、秋には設置が完了すると思っていましたが、半導体不足などの影響で発注から入荷まで3ヶ月も待つことになりました。年内には工事を完了することができて、ホッとしています。



得られた効果

除湿器の設置後、24 時間稼働させています。これまでは冬場でも湿度は 70%前後ありましたが、除湿器導入後は 45%前後まで抑制できており、効果を実感しています。近くの部屋で仕事をしているスタッフも「倉庫のジメジメ感がなくなった」と話していました。

湿度の高まる梅雨～夏～秋を想定して導入機種を選定したので、その時期になればもっと効果を実感することができると思います。これで、大切な研修備品類がカビ等の被害に合わなくなるので、とても助かりました。

今後の課題

おきなわ医療的ケア研修センター部門としては、医療的ケア児支援法の施行に伴い増加している、学校や保育園からの研修の希望・相談の対応に注力したいと考えています。介護の経験がない教員や保育士等に医療的ケアのことを理解していただくのは、これまでの介護職に向けての説明では難しいことが多く、沖縄県の担当部署と連携して工夫を重ねているところです。

また、宮古島や石垣島を含む離島で、この研修を開催している団体がなく、当法人が毎年出張開催しています。離島で研修が開催できる団体を発掘し、研修ノウハウの提供や備品の貸し出しを行うなどして、離島でも研修ができるよう支援していきたいと思っています。

社会福祉法人登別さいわい福祉会

<https://www.saiwai-noboribetsu.com/>

【所在地】 北海道登別市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

地元企業から下請け作業を請け負い、部品組立・保冷剤製造などを行っています。

菓子製造部門では、北海道産の豆乳を使用した「豆乳シフォンケーキ」を製造しています。

施設敷地内の温熱ハウスでは、水耕栽培によるリーフレタスを栽培しています。その他、施設屋内でも水耕栽培を行い、バジルの栽培を行っています。

豆乳シフォンケーキやリーフレタスは、施設内店舗での販売の他、市内事業所への移動販売や、地域のイベントに出店して販売を行っています。バジルは、登別温泉のpizza屋で使用して頂いています。

施設外就労として、登別温泉のホテルの清掃業務を行っています。ベッドメイクからバストイレ清掃まで、一通りの業務を請け負っています。

「車両の購入」

【助成額】 100万円

実施目的

下請作業の資材や、製造商品の販売等の効率的な運搬を行うため

実施内容

車両名 ダイハツ ハイゼットカーゴ

使用頻度 月～土

- ・朝夕2便の利用者送迎
- ・下請け作業の資材運搬、納品
- ・施設商品（リーフレタス、豆乳シフォンケーキ）納品、販売

得られた効果

- ・軽貨物車両を整備できたことにより、下請け作業の納品や、移動販売の際の施設商品の運搬機能が向上した。
- ・利用者送迎業務に、老朽化した車両を使用せざるを得ない状況であったが、車両を整備できたことにより、安心安全な車両で送迎できるようになった。

今後の課題

- ・施設商品の主力である、水耕栽培のリーフレタス栽培と、豆乳シフォンケーキの生産能力向上を目指し、売上を増やしていきたい。
- ・地元企業との連携を深め、施設商品の販路拡大を進めていきたい。



特定非営利活動法人カモミール

<http://hanakoubou-chamomile.org/>

【所在地】 千葉県柏市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者

【日常の活動】

- ①生活介護事業 ②共同生活援助事業 ③日中一時支援サービス ④ハーブ関連商品の製造、販売
⑤公園清掃(受託業務)

「送迎用車両の購入」

【助成額】 200万円

実施目的

車両の追加配備による送迎機能の強化

実施内容

送迎車両の購入および配置

トヨタNOAH(8人乗り)を購入し、2024年4月から施設送迎車両として運用を開始いたしました。当施設は障がい者生活介護施設として、比較的重度の障害を持つ利用者が多く利用されるため、送迎は基本にご自宅を回ってのルート送迎が基本となります。

現在は主として平日(月～金)の朝夕の送迎車両として運用しておりますが、当法人は複数の拠点、付帯施設にまたがって活動をしているため、送迎以外の用途として、利用者の拠点間移動や付帯する農場での活動、市から受託している公園清掃等への移動、また日中活動として日帰りのドライブなど、多岐にまたがった運用をしております。

得られた効果

2024年4月に新規生活介護事業所「花工房すずかけの森」が営業を開始し、利用者増加により送迎体制がひっ迫しておりましたが、新車両の導入により緩和することができました。

今後の課題

新規車両の導入により、利用者の増加による送迎体制は維持することができましたが、新規事業所「花工房すずかけの森」開設に伴い、利用希望の問い合わせが増加しており、現在のようなドア to ドアの送迎を単純に車両の増車だけでどこまで維持できるかを検討する必要を感じております。



特定非営利活動法人りあらいず和

<http://riaraizuwa.web.fc2.com/>

【所在地】 岐阜県郡上市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

【生活介護1】 創作的、生産的活動を通し生産能力の向上を目指す。

【生活介護2】 リハビリテーションを中心に、身体機能の向上を目指す、

【就労継続支援A型】 障がいのある方の「働きたい」を叶え、心を込めて宅配弁当を手作りしております。
(宅配弁当の盛り付け作業など)

【就労継続支援B型】 就労の機会の提供を通し、必要な知識及び能力の向上や社会性を学びます。
(回収した弁当箱の洗浄・乾燥作業)

「送迎車両の購入」

【助成額】 140万円

実施目的

「指定障害福祉サービス多機能型事業所 スマイルドーナッツ」の利用者送迎

実施内容

- ・「指定障害福祉サービス多機能型事業所 スマイルドーナッツ」利用者の送迎車両として中古車両購入。
- ・トヨタ 小型乗用車 車種名：ボクシー ステーションワゴン 8人乗り。
- ・1週間 月～土曜日（第1・第3 土曜日休）朝夕の利用者送迎など。

得られた効果

「指定障害福祉サービス多機能型事業所 スマイルドーナッツ」

- ・生活介護①は、生産的活動（内職事業）を行いながら、生活能力の向上を目指しております。
- ・生活介護②は、リハビリテーションを中心に身体能力の向上を目指しております。
- ・就労継続支援A型事業所は、障がいのある方の「働きたい」を叶え、配食弁当の盛り合わせ作業などしております。
- ・就労継続支援B型事業所は、就労機会の提供として、回収した配食弁当箱の洗浄・乾燥作業などしております。

郡上市は中山間僻地で、公共交通機関も十分ではなく、集落も主要幹線道路から枝葉に分かれています。このため朝夕の1台当たりの送迎時間も長くなり、利用者の乗車時間も長くなっておりました。

今回助成により購入した送迎車は8人乗りと少しコンパクトとし整備したことにより、上記の事などが解消される事となりました。

今後の 課題

- 令和5年4月に生活介護の重度障害の方を対象に、新しくリハビリテーションを中心に身体機能向上を目指し運動出来る施設（スマイルライフ）を創設しました。

この施設をより一人でも多くの方に利用して頂くためにも、今回の貴財団助成で整備した車両を有効に使用していきたい。



認定特定非営利活動法人フリースペース・うえるびー

http://npo-wellbe.com

【所在地】 静岡県島田市 【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者、重症心身障がい者

【日常の活動】

1階と2階で定員20名の生活介護事業を実施しています。
1階の「こかりん」では、医療ケアの必要な方や肢体不自由で車いすに乗車している重症心身障害者が活動しています。午前中は、バイタルチェックやマッサージなど、個々の特性に合わせたリハビリや作業を行い、集中して取り組む時間を設けています。午後は、ゆったりと休憩を取り入れながら、仲間と一緒にゲームや楽しい遊びを取り入れ、お互いを意識することでやる気がアップするよう活動しています。
2階の「かりん」では、主に自閉症や知的障害の方が活動しています。午前中は、ウォーキング等で体力づくり。セレクトタイムでは自分の好きなことができる時間を設けています。午後は、作業活動を通して集中力が身につくように支援しています。また、創作余暇活動、季節の行事、外出体験等の機会を提供し、社会のマナー・ルールについても、実践を通して楽しく学んでいます。社会人として、自分でできることは自分でやり、多くのことが身につくような支援を行っています。

「送迎車両の購入」

【助成額】 120万円

実施目的

当事業所の車いすを使用している利用者様を、安全かつ快適に送迎するために、老朽化した車両を買い替え、新しい車両の購入を検討した。

実施内容

車両名：ホンダ N-WGN 助手席回転シート 使用頻度：週5日（月曜日～金曜日）

利用者様のご自宅から事業所まで、毎日朝・夕の2回の送迎を行っています。

天気の良い日のドライブや、初詣や外食などのイベント時など、お出掛けの際の移動（月に数回）に使用させていただきます。

得られた効果

当事業所の利用者様の中には身体障がいがあるため、移動の手段として、事業所内でも車いすを使用されている方がおられます。また、ご自宅の都合で、家の中では車いすが使えない方もおられ、送迎の際、車いすから回転シートのある車に移乗していただいています。この車両のおかげで、転倒などのリスクが大幅に軽減でき、送迎職員の体にも負担が少なくてすみ、元気に通所できるようになりました。

また、安全な新しい車両で快適に送迎できることはもちろんですが、これまでお願いしていた保護者の送迎の負担も軽減でき、送迎サービスがあることで、より安心して通所してもらえることができています。

今後の 課題

重症心身障害者の高校卒業後の受け入れ先が地域で充足されていないので、1階の「こかりん」のスペースを広げるべき、法人内で事業所の移転を計画してきました。

来年4月からの利用者さんの受け入れるスペースは確保できたものの、バギーでの送迎を希望する重症心身障害者が多く、車いすが2台乗車できる大型のリフト車が必要になってきます。また効率的に送迎できるよう、今後検討していく必要があります。



一般社団法人あすへのとびら

<http://www.tetotetsunaide.com/>

【所在地】 京都府福知山市

【対象者】

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者

【日常の活動】

・ 障害者総合支援法に基づく事業

現在、就労継続支援A型20名、B型20名の定員で認可を受け、A型19名、B型10名の方が、基本的には、着物や小物のメンテナンスと保管作業に従事していますが、一部、清掃業務や入力業務、B型では御朱印帖づくりなどの内職業務に従事しています。身体障害の方もいらっしゃいますので、最寄駅からの送迎を実施しています。また、健康状態に不安のある方もいらっしゃいましたので、栄養価に配慮した食事を、規則的に取っていただく食事（昼食のみ）の提供を行っています。

「車両の購入」

【助成額】 100万円

実施目的

当法人は、過疎化の進む京都府北部地域に、就労継続支援A型、B型事業所を開設し、そこで就労を希望する多くの障害者の方を受け入れ、着物のメンテナンスという、これまでの経験から、大半の方が心を癒しながらできる仕事を提供、それに見合った賃金、工賃（工賃も、当法人は最低限最賃の1/4～半額程度支給するため、一般のB型より高いと思います。）を支給していますが、過疎地域で就労の場を提供しているため、それに欠かせない「送迎車」を新たに配備して、住み慣れた地域で働きたい障害者と働く場をしっかりと結びつけ、地域での継続的で安定的な生活を保障します。

実施内容

(1) ディーラーから、当初予定していたトヨタアルファードの期限内調達ができないが、性能、乗車人数が同等の日産キャラバンなら可能との連絡がありましたが、前金払が条件とのことでしたので、当法人としては、金額を同額に抑えてもらうことを条件に承知しました。その後、資金繰りを調べて、11月23日に支払を完了、当初計画よりも遅れましたが、無事12月7日に車両の購入ができました。その後、冬用の準備等微調整を行い、年末に現地配備を完了、2024年新年から、送迎を開始できています。

(2) 運行状況

- ・ 9時半に、JR福知山駅で早出利用者を出迎えて、事業所まで送り
(現在、利用者の全員が福知山駅のため)
- ・ 同じく10時半に、福知山駅で遅出利用者を出迎えて、事業所まで送り
(以後、11時から午後3時くらいまでは、商品搬送等に使用)
- ・ 午後3時、4時、5時と退社する利用者
(出勤時間や勤務時間で、退社時刻が割れる。)を福知山駅まで送り



(3) 現在の利用者数

A型10人(全13人中)、B型4人(全4人中)

- * 北部事業所は、当初、週勤務5日制でしたが、現在、人数が増えたため、週7日シフト制に移行しています。そのため、日々の利用者数は上記数字より少なくなります。
- * 9人乗りで毎回6~7人の送迎が可能のため、利用者がもっと増えても大丈夫です。
- * なお、当事業所は、最寄りの店舗(コンビニローソン)まで、車で15分かかりますので、従来は、スタッフの私用自動車を使用していた、急な業務用用品、利用者用用品の購入にも使用させていただいています。

得られた効果

現在、京都市内や京都府南部の就労継続支援事業所の利用者は、なかなか応募がないと言われていま
す。(当法人の南部事業所は、常に人手不足状態です。)

しかし、北部事業所への応募は、予定していたより多く、早くなっています。これは、今まで同じような事業
所が少なかったこととも思いますが、過疎地にとって生活の足である「車通勤」ができないため、就労の
機会や意欲を失っていた障害者の方が多かったからのようにも思います。その方たちが、「送迎可」を好意的
に受け止め、毎日遠方から通ってきていただけるようになったからだとも思います。このように、今回のご支
援で、自法人の専用送迎車で送迎できる体制を整えられたことは、地域の障害者に、生きるための「足」を提
供し、仕事と社会への参加を促す大きなきっかけになったと思っていますので、今後とも、これをしっかりア
ピールして、より多くの方に働いていただける環境を整えたいと思っています。

今後の課題

(1) 仕事の安定的な確保

- ・ 今期は、事業所移転初年度で、これまで、発注先の各地の店舗に分散されていた商品が、北部事業所に集
められて、そのメンテナンスや、効果的な管理(急ぐものとそうでないものの分別、それぞれの保管場所の
検討等)など、初めての仕事が多く、大変忙しい1年でしたが、今後は、これらの仕事が一段落して、ルー
ティーン業務化します。
- ・ ルーティーン業務自体が、大きな業務量はあるのですが、季節変動もありますの
で、今後も増えることが想定される利用者の方に、職業訓練を兼ねながら、毎日、やる気をもって働いてい
ただける仕事を作り出すことも必要になると考えています。

(2) 業務用小型エレベータの設置

- ・ 北部事業所は、1階で作業(洗濯、アイロン、補修、干し、たたみ、保管箱入れ等)を行い、2階、3階
で保管する、という仕組みになっています。
- ・ 保管箱は、中身が、着物、袴などとはいえ、結構な重さがあり、これを(繁忙期は)毎日、何十箱も運ば
ないといけないため、利用者にはしていただき、スタッフが行っています。
- ・ これはこれで、現在何とか回っているのですが、スタッフから、2階、3階までの業務用エレベーターの
設置の要望が出ていて、備品的には、これが次の一番大きな課題となっています。(約1千万円)

(3) 地域とのより一層の連携

- ・ 昨年11月26日の日曜日に、当法人の最大のお客様で、発注先である企業の地元イベントで、当法人
の利用者、スタッフを紹介してくれる機会がありました。ここで、当法人の仕事が、福祉関係機関や特別支
援教育関係の方々以外、特に近隣の方々に広く知っていただけるきっかけになりました。
- ・ これを機に、今後も、当法人の仕事や、利用者の方々を地元の皆さんに知っていただき、継続した交流、
連携が図れるようにすることが重要だと思っています。

特定非営利活動法人ナポレオンフィッシュ

<https://napoleonfish.jp/>

【所在地】 大阪府大阪市 【対象者】 知的障がい者

【日常の活動】

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス、就労継続支援B型「ナポレオンフィッシュ」の運営。定員20名（平均利用者数18.6人/令和5年2月）で、主に知的障がい者の就労の場を提供している。活動として、ガチャガチャトイのカプセル入れ、ボルトナットの袋詰め、ギフト商品の箱折りなどの軽作業を受託し、個々の障がい特性に合わせて作業を行っている。

「車両の購入」

【助成額】 200万円

実施目的

リース車両による固定費を軽減し、削減された経費で工賃アップの取り組み及び職員の業務スリム化に向けた費用に充てるため

実施内容

車両の購入

車両名：日産 キャラバン

使用頻度：月-金の営業日・月間走行距離約500km

使用目的：委託資材の納品及び利用者の朝・夕送迎

得られた効果

リース車両と入れ替えを実施したことにより固定費が減少。その効果により床清掃用具を購入させて頂きました。既存の清掃用具は職員の身体的な負担があり、また清掃作業効率も悪かったが、新しく導入したものを活用することにより職員の業務負担が軽減され、新たな事へ取り組む時間の確保につながりました。

今後は新たな時間を利用者の就労環境の改善のための取り組みに費やしてまいります。

今後の課題

今後さらに当事業所の利用者が働きやすくなるための環境作りのために、棚を設置するなどの工夫を重ねていきます。そして職員の業務のスリム化を検討し、必要な備品の購入を行っていく予定です。

利用者・職員ともに働きやすい環境を整えることで、当団体が課題にあげる工賃アップの実現を目指していきます。



一般社団法人ことばの道

<https://kotobanomichi.jp/>

【所在地】 兵庫県神戸市 【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者

【日常の活動】

【地域密着型通所介護・生活介護】

介護保険、障害福祉の施設です。失語症や高次脳機能障害等でコミュニケーションが困難な方々に対し、専門職による言語リハビリに特化したデイサービスです。

【就労継続支援B型】

障害の方々を対象に片手でもできる作業として、自家焙煎したコーヒー豆の選別や、手造りドリップパック作り、地域社会への販売を行い社会参加、復帰への支援につないでいます。

【児童支援】

①児童発達支援：未就学児を対象とし、ご家族に寄り添いながら言語聴覚士、作業療法士、保育士などが個別的、集団的に関わり、療育を行っています。

②放課後等デイサービス：小学生から高校生迄を対象とし、言語聴覚士、作業療法士、児童指導員等が自主性を尊重し、自立支援にむけ関わります。学校等の関係機関とも連携を深め、育成を育みます。

【居宅介護支援事業所】

家族や各関係機関との共有理解に繋げ自立支援に向けたケアプランを作成しています。

「福祉車両の購入」

【助成額】 200万円

実施目的

車椅子のまま乗れる自動車タイプの送迎車両を増車することにより、車両への乗車がより安全に行え利用者への負担の軽減や介護者の介護負担軽減できることとなる。

実施内容

送迎用車両の購入 車両名：新型シエンタ HEV G 車いす仕様車タイプⅠ（助手席側セカンドシート付）

使用頻度：稼働日⇒月曜日～金曜日

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| ① 9：00 着のデイサービス利用者お迎え | ② 10：00 着の就労継続支援B型利用者お迎え |
| ③ 12：05 発のデイサービス午前利用者のお送り | ④ 13：30 着のデイサービス利用者お迎え |
| ⑤ 14：30 着の放課後等デイサービス利用者お迎え | ⑥ 15：15 発の就労継続支援B型利用者お送り |
| ⑦ 16：35 発のデイサービス午後利用者のお送り | ⑧ 17：30 発の放課後等デイサービス利用者お送り |

どのように使用しているか：2008年より失語症に特化したデイサービスの事業を開始しました。

そして、利用者増加に伴い2021年度より場所を移転し、定員を約2倍に増やした失語症に特化したデイサービス、神戸市初の言語コミュニケーション障がい者に特化した就労継続支援B型、言語および作業療法を専門的に受けることができる児童発達支援・放課後等デイサービスの事業を新たに展開しました。

全国初の多機能型施設として、使用頻度①～⑧のように各事業所の送迎にフル稼働しています。

得られた効果

車椅子対応車両を導入することにより、

- ①車椅子利用者の送迎に対応できる
- ②車椅子のまま乗車できる
- ③電動ウィンチ等による車椅子の乗車が安全に行える
- ④利用者及び介護者への負担軽減となり、

送迎時間短縮や人員配置の効率化が図られる

- ⑤労働者にとって安全な介助が見込まれる

H E V 車両を導入することにより、

- ①燃費がよく、結果として CO2 排出量も少なくなる
- ②走行音が静かで、利用者および介護者が安心して乗車できる
- ③走行中の環境汚染への影響を抑えられる



今後の課題

全国的にも数少ない団体であるため利用の声が多く寄せられていますが十分対応しきれないことが課題として挙げられます。デイサービス事業は遠方からの利用希望もありますが、送迎車の数や車両タイプに限りがあり対応が難しいケースも存在しました。

また、児童発達支援事業は明石市や丹波篠山市などの市を越えた利用児もいるため、家族への負担軽減が課題です。さらに放課後等デイサービス事業は現在 20 名近い待機児童がおり、十分対応できていないことが課題です。

特定非営利活動法人 B i r t h 神戸

http://birth-kobe.com

【所在地】 兵庫県神戸市 【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者

【日常の活動】

障害福祉サービス事業所「B i r t h 生田川」就労継続支援B型

(定員20名・2022年度1日平均11.5名 ※2023年10月度1日平均13.5名)

活動内容

- ・アート活動：世界にひとつだけのオリジナルデザインTシャツ事業、オリジナルポストカード制作、オリジナルグッズ制作（絵本・クリアファイル・小説キーホルダー・ガチャガチャなど）、絵画展出展、WEBショップ「minne」出店
- ・音楽活動：オリジナル曲制作、Y o u t u b e 生配信ライブ企画、ライブハウス出演、CD制作
- ・イベント開催：2023年12月 第3回魂の絵画展 2023年9月 よみがえれ！魂の宴
- ・企業からの受注作業：新聞折込ポスティング配布、100均商品の組み立て、輸入絵具の検品シール貼り、各種デザインなど

「車両の購入」

【助成額】 146万円

実施目的

- ・送迎車両の老朽化
- ・心臓疾患を抱えケアギバーの必要な利用者の送迎を安心安全に実施するため

実施内容

車両名：ノアX デイライトプラス2000cc

- ・利用者の送迎（1日あたり延べ約20名が利用）
 - ・外出レクリエーション、音楽ライブ等で活用
- 9/30（土）彦根城観光レクで活用（利用者6名乗車） 10/1（日）フリマク@三宮プラッツ（利用者6名乗車）
10/9（月・祝）ネスタリゾート神戸（利用者5名乗車） 11/3（金・祝）神戸どうぶつ王国（利用者6名乗車）

得られた効果

- ・旧送迎車は最大3名までの乗車人数だったが、車両購入により最大6名の乗車が可能となり、送迎業務の効率化が図られた。
- ・旧送迎車は車内シートが狭かったが、車両購入により車内シート部分が広くなり、利用者がゆったりと快適に送迎車の乗車ができるようになった。
- ・旧送迎車の老朽化によりコロナ禍終息後の送迎の継続が課題であったが、車両購入により心臓疾患を抱える利用者の受入が継続できることになった。
- ・以前は外出レクリエーション時に必要であったレンタカーが不要になり、経費削減につながった。



今後の 課題

- ・外出レクリエーションの活性化

レンタカー経費が削減されたため、2ヵ月に1回程度のレク機会を月1回に増やすことを検討する。

- ・利用者人数が増えたため、次なる事業展開の必要性

現在1階スペースを事業所の活動場所としているが、2024年春頃、新たに建物2Fスペースを就労継続支援B型事業所としての活用実現化に向けて準備を進めている。

【所在地】 兵庫県尼崎市

【対象者】 身体障がい者

【日常の活動】

尼崎市委託事業：手話通訳者派遣事業、要約筆記者派遣事業、手話通訳者養成事業、要約筆記者養成事業
当協会独自：手話通訳者・要約筆記者派遣事業、月1で理事会を実施、年4回で交流行事を実施

「聴覚障がい者支援のための ICT 機器の購入」

【助成額】 77万円

実施目的

当協会が取り組んでいる意思疎通支援事業に、難聴者に対する支援では補聴援助システムであるヒアリンググループを併設して聞こえを補うこととし、情報保障として支援者のパソコンによる要約筆記で提供し、安定した事業が行えるようにするものとする。

実施内容

1. ヒアリンググループの購入

公的行事もしくは、当協会行事の開催時などに対象者が必要な時にヒアリンググループを配置して、聞こえを補える環境づくりに努めていく。

2. パソコンの購入

新しいパソコンで、要約筆記者のスムーズな文字表出による要約筆記で、情報支援をしていく。

得られた効果

聞こえを補える環境提供が出来、ストレスの感じることのない社会参加に繋げることが出来る。

今後の課題

日常生活のなかで、障害が故の不便さを軽減出来るよう、聞こえを補える ICT を駆使していき、また行政と協働しながら、聴覚障害者の福祉社会に貢献出来るよう取り組んでいきたい。



【所在地】 兵庫県芦屋市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者
発達障がい者、その他

【日常の活動】

個別支援計画に基づいての支援を行っている。

事業所内

将来の自立に向かっての、各子ども達に合わせての学習

発語、挨拶、手作業を考えての工作、字の練習（名前、住所など）、お金の計算、時計の見方、ピアノの練習、パソコンの練習、ラジオ体操、ゲーム等

「車両の購入」

【助成額】 136万円

実施目的

現在使用している車両が、老朽化しているので送迎や、野外活動、地域のイベント等に参加する際の移動に、より安全に子ども達が移動できるように。

実施内容

トヨタ ノア

事業所の開所日 毎日

学校授業日

送迎（学校から事業所 事業所からご自宅）

学校休校日

送迎（ご自宅から事業所 事業所からご自宅）

野外活動や地域のイベント等の参加、施設見学などへの移動



得られた効果

年式も新しく、走行距離も少なく快適により安全に送迎などの業務ができました。
搭乗している子ども達も喜んでいきます。

今後の課題

将来の子ども達の自立に向かって何をしていくのかを考えて業務に励みたい。
新型コロナウイルスが5類になり、まだまだ安心はしていませんが少しずつでも地域のイベント等への参加をしていきたい。野外活動を以前の様にやっていき、子ども達への楽しみを増やしていきたい。

特定非営利活動法人つつじ会

http://tsutsujikai.com

【所在地】 兵庫県加東市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

地元加東市の第6期障害福祉計画を踏まえ、重度の障害者ニーズに応えるため、令和4年4月に生活介護事業所「ともに」を新規開設した。

事業所は兵庫県立播磨中央公園に隣接しており、天候の良い日は公園にウォーキングに出かけるほか、健康体操等による健康維持を日々行っている。その他、創作活動、軽作業を行っているが、働きたいと言われる利用者が増えてきたことから、自主生産活動（ジャムの製造・販売）にも取り組んでいる。

また、社会体験が少ない方も多いため、積極的に外出の機会を設けている。

「車両の購入」

【助成額】 120万円

実施目的

車両の更新による送迎の効率、またレクリエーション活動や事業活動にも利用する。

実施内容

- ① 購入車両 トヨタ「シエンタ」7人乗り（中古車）
- ② 使用頻度 毎日
- ③ 使用目的

■毎日朝夕の利用者の送迎

現在1日あたり、最大利用者9名を3方向に分かれて車送迎している。

■軽作業実施における材料の受け取り及び完成後の納品

受託軽作業において、荷物が載せられる車両として使用している。

■利用者の外出（買い物、食事、行事）

定期的に利用者外出に使用している。



得られた効果

- ① 利用者増への対応が可能に

利用者が現在10名に増加しており、4人乗り軽自動車を7人乗り普通自動車に更新できたため対応が可能となっている。

- ② 送迎業務の効率化が図れる

毎日朝夕の利用者の送迎では3方向に分かれて車送迎しているが、これまで3台の内1台が異音のする軽自動車であったこともあり、購入により配車計画が柔軟に実施できるとともに、利用者も快適な車を喜ばれている。

③ 受託軽作業業務の納品業務の効率化

受託軽作業において、荷物が載せられる車両がなく、これまで何回かに分けて行き来してきたが、購入車両はシートを倒すことで荷台が広がり業務の効率化が図れている。

④ 外出の積極的な実施が可能に

利用者の楽しみである外出に快適に使用させていただいている。購入車両の乗車定員が7名であることから、一定数でのグループ外出がしやすくなっている。

今後の 課題

今回の購入車両を活用して、さらに外出機会を増やしていきたいと考えている。利用者が増えてきたことにより外出の要望も多種多様となってきたが、生活用品の購入（100円ショップ）、外食、遊び等それぞれのグループ化を図り、少人数での外出を実施したい。

大半の利用者は家庭基盤が弱く社会経験が少ないため、外出や外食は大きな喜びとなっている。これを重ねることにより、事業所の魅力を高め、またご本人の生きる励みとしたい。

社会福祉法人結い

nanbyouren-okayama.com

【所在地】 岡山県岡山市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者

【日常の活動】

障害を持つ方々の働く場として障害福祉サービス就労継続支援B型事業を運営。

現在は定員20名にて、23名の登録者の方たちが在籍しており、主な障害種別としては精神障害の方が多く在籍をしています。通所者の方たちは就労支援事業として行っている宅配弁当事業に従事し、ひとりあたり一か月平均約25,000円の工賃をお渡ししています。宅配弁当事業の主なお客様は地域の一人ぐらしの高齢者の方々に、地域の中でお食事にお困りの方々に配達料無料で1食からお弁当をお届けしています。

当店のウリとしては、多くの宅食事業者が月単位での契約を行っているのに対し、当日対応も行っている点にあり子育て世帯、介護が忙しい方の急なご要望にもお応えをしております。

「弁当配達用の中温保冷車の購入」

【助成額】 181万円

実施目的

お弁当を5度以下に保ちながら夏場も安全にお客様に配送を行うため、中温保冷車の購入を行う。

実施内容

購入した車両名：ダイハツ ハイゼットトラック特装車

車両の使用状況：月曜日～土曜日の弁当配達に11月24日(金)より使用

車両の更新により期待する効果：お弁当を5度以下に保ち安全に配達を行います。

<具体的な営業計画>

全国的な求人難により介護・福祉施設において自前での給食提供にかかる人員体制確保に困難さが出てきています。実際に、近隣のデイサービスや有料老人ホーム等から急な対応についてご相談をいただくケースも出てきています。また、小規模事業者は人員の確保のみならず厨房設備にかかる資金面での問題もあり、自前で給食提供を行っていく上での障壁となってきます。しかしながら、施設における給食は利用者が施設を選ぶための大事なポイントになっています。

現在配達圏域に60カ所の介護・福祉施設があり、

未だ営業できていないところも多くあります。喜楽の「おいしい！安全！安心」をアピールしご利用者の満足度もあげる給食として当店のお弁当を選んでいただけるよう、重点的な営業を行っていきます。

具体的な営業方法としては、年二回（5月、10月）のDM郵送を行い、季節行事食の営業と合わせての訪問営業も実施していくようにします。これらの結果、月に200～300食、年間200万円の売上増を目指していきます。



得られた 効果

所有する保冷車3台すべてが老朽化しており、保冷機能の故障も起きてきている中で買い替えの資金が確保できず修理をしながら乗り継いできていました。

今回、一番古い車輛1台の更新ができたことにより夏場も安心安全にお弁当を配送することができます。

今後の 課題

実施内容の項で記載したように、福祉・介護施設向けの営業を強化することでさらなる収益拡大につなげ、残り2台の車両についても順次更新を行っていくことが急務となっています。

ピアサポートセンターひといろの実

<https://hitoiro-no-mi.org/>

【所在地】 岡山県倉敷市

【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

- ・障害者総合支援法に基づく事業、介護保険法に基づく事業として、多機能共生型事業体
くらしきピアぽーと：多機能として生活訓練（訪問型自立訓練）、生活介護、共生型地域密着型通所介護、
契約者19名、一日平均利用者10名
- ・サロン活動（毎月第2、4土曜）、倉敷市ピアサポート活動準備委員会活動（月1回）
- ・ボラピア：卒業者が同じ目線での見守り活動、ソーシャルスポーツ活動（開所日）
- ・電話相談（毎週 金曜日 1時間）予定

「車両の購入」

【助成額】 187万円

実施目的

現在、二台の軽乗用車がありますが事業所ではコロナ禍密を避ける為に運転手一名とご利用者2名までと決め運行しておりました。また、多機能化に伴い送迎の人数が増えたこともあり、配車を現状の軽乗用車二台で組む事で送迎の時間を待っていただく、来所して頂けるか否かと、ご利用者の方にご迷惑をお掛けしている状況でした。また、外出するプログラムの実施でご希望の方の乗車が出来ずに我慢して頂くこと、遠慮されて参加の意思表示をされない方が出ているなどの弊害がありました。希望の車種を準備出来れば、これらの改善や集団移動をしやすくなり、集団でいけなかった自然のあるところへの外出を通じたストレスの発散やセルフマネジメント、また社会体験先へ行けることでの学びなど、日ごろの生活範囲を超えた世界との広がりを通して、日常生活の安定に活動したいと考えています。

実施内容

◇車両購入 ノアハイブリッド

送迎、集団プログラムや人数の多い移動で使用しています。

- ・送迎…朝のお迎えで同時間帯に東西南北へ発車するため、その日にお迎えする人数の多い方面を優先的に運行しています。またパーソナルスペースが狭いと辛い方の送迎にも活躍しています。
- ・プログラムなど…運転スタッフを入れて7名まで乗車、数台で外出する集団プログラムで使用しています。

得られた効果

車両が増えた事で、これまで送迎の時間を待っていただいたご利用者さんに、より適切な送迎ができるようになりました。また、時間へのこだわりや生きづらさがある方にとって、時間通りに活動したいのに出来ない事でのストレス軽減の効果、人との距離が近いとしんどい方の乗車でも安心して利用して頂いています。これは、継続的な来所にも繋がっており、支援計画に沿った自らの体験や学びの継続されやすさに繋がっています。ま

た、本来なら参加できるはずのプログラムを乗車人数の制限で我慢されていた方に、遠慮なく乗車、参加して頂けるようになりました。これは、対象者と従事スタッフの安心とゆとりにつながっており、乗車数や台数問題で支援が滞る状況が改善されています。

今後の課題

これまでも、これからも障がいを抱えながら働くスタッフと共に活動していく事業と法人です。乗車人数で足踏みしていた障害者総合支援法と介護保険法のサービスはもちろん、法制度だけではカバー出来ない隙間の事業にも取り組み中です。中でも、サロン活動（コロナ禍集える場所の減少や活動中止などの背景があります）・インクルーティブなスポーツ（人づきあいが苦手でも、言葉だけでなくボールなどそれぞれの共通言語を通じて繋がれる）を通じて、同じ心の病や、病気でなくとも誰にでもある生きずらさに寄り添います。出会い・繋がり・正しい情報のご提供・日常的なピアサポート文化の構築に向けて多様な方々との協同に取り組みます。そして、最大の課題である精神疾患に対する理解と偏見の軽減へ向けて取り組んでまいります。



特定非営利活動法人のぞみ

【所在地】 岡山県高梁市

【対象者】

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

- ①豆腐料理専門店『雲白』の運営 ②弁当の製造・販売 ③高梁市市民体育館の清掃
④施設外就労『大黒天物産』 ⑤施設外就労『JA選果場』での選果作業

「弁当販売用保冷車の購入」

【助成額】 186万円

実施目的

『弁当販売』

実施内容

【車両導入後のスケジュール(目標)】

- ・2024年(春) 車両到着(移動・イベント販売開始・・・車両2台稼働開始)
- ・2023年4月～2024年3月(弁当販売予測24,000個)
- ・2024年4月～2025年3月(弁当販売予測31,200個)※前年度比130%
- ・2025年4月～2026年3月(弁当販売予測32,000個)
- ・2026年4月～2027年3月(弁当販売予測33,000個)
- ・2027年4月～2028年3月(弁当販売予測34,000個)
- ・2028年4月～2029年3月(弁当販売予測35,000個)

得られた効果

車両導入後、継続的に『弁当販売』の事業に用いていくため、『成果』及び『効果』につきましては、今後実施後検証を進めてまいります。

今後の課題

『お弁当』の販路拡大(イベント・委託販売含む)

当初計画(目標含む)に沿って『弁当販売』を進めて参ります。

- ①各種イベントの積極的出店 ②委託販売先の拡大、充実 ③宣伝販売先の拡大、充実

特定非営利活動法人キュアポート

【所在地】 山口県長門市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

当法人は、障害者が共同で生活する「グループホームキュアプレイス三隅」と障害者に働ける機会を提供するとともに、生活活動などの機会を通じて、自立するための知識や能力の向上回復を図る就労継続支援B型「就労継続支援施設キュアポート」を運営しており、働くだけでなく、就労で得たものを生活の楽しみや潤いにつなげています。共同生活援助事業は、男性20名、女性10名を定員とし、精神障害や知的障害の方が入居しています。就労継続支援B型事業は、登録者数は32名で、整備活動事業・農耕活動事業・販売活動事業に分かれ、利用者にできる限り適した事業に参加して頂いています。整備活動事業は、主に公営施設や病院の清掃作業を行い、農耕活動事業は、自社の畑や提携農場で農作業を行っています。また、販売活動事業は、地域のイベントへの参加やペットボトル等のリサイクル作業を行っています。

「送迎用車両の購入」

【助成額】 200万円

実施目的

現行の送迎用車両が老朽化しており、故障して就労場所への送迎が困難になるリスクが高いため、送迎用の車両を買い替えるものです。

実施内容

◇送迎車両の購入

- ・ 車種名 トヨタ ハイエースワゴン D×10人乗り 4ドア
- ・ 納車日 西暦2024年5月2日
- ・ 使用頻度 月曜日から土曜日まで毎日（祝祭日を含む）
- ・ 使用内容 就労継続支援の利用者を当施設から就労場所まで送迎（往復）するのに使用しています。また、グループホーム利用者に対して、定期的にお買い物を実施していますが、その送迎にも使用しています。



得られた効果

既存の車両は2005年10月に購入したもので、乗り心地が悪く、故障のリスクが高い状態でありましたが、今回、貴財団の助成を受けて新車を購入させていただき、故障リスクが低減したことはもちろん、利用者から「新しい車で送迎してもらい、就労に行くのが楽しい気持ちになる。」という声もありました。

今後、利用者の就労への参加意識が高まり、一人当たりの就労継続支援の参加日数が増え、社会復帰に向けての意識が向上していくことが期待されます。また、当施設の職員体制が整えば、自宅と施設の送迎を開始することができ、さらに利用者が増加する見込みです。

今後の 課題

人口減少に伴い、利用者の確保が年々困難になっております。他の施設にない魅力ある施設になるような取り組みが求められています。また、利用者の高齢化や機能低下も目立ち始めており、利用者の適性に合った就労の機会を提供していく必要があります。

【所在地】	愛媛県松山市	【対象者】	身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、 発達障がい者
【日常の活動】			
①障害者支援施設スマイル			
・施設入所支援(定員30名)	・生活介護/共生型通所介護/共生型介護予防型通所サービス(定員55名)		
・短期入所/共生型短期入所生活介護/共生型介護予防短期入所生活介護(定員4名)			
・日中一時支援(定員5名)			
②ヘルパーステーションスマイル			
・居宅介護	・重度訪問介護	・介護予防型訪問サービス	・訪問介護
	・移動支援	・養育支援訪問介護	
③相談支援事業スマイル			
・地域移行/地域定着支援	・計画相談支援	・障害児相談支援	

「福祉車両の購入」

【助成額】 146万円

実施目的

主に生活介護事業にて、利用者様の日々の送迎、また入所者及び通所者、短期入所者の病院受診や、外出行事等の余暇活動でも活用する。現在、延べ40名が1日に送迎サービスを利用されている。送迎を行うにあたり、希望の時間をご家族の就労や居宅介護事業所が通所の為の送り出しや迎え入れに入っている利用者様が多く、同じ時間帯に集中するため自宅送迎をされる方もいらっしゃる。便数を維持することで出来る限りニーズに対応したいと考えている。

実施内容

福祉車両購入：スズキ エブリィ 車いす移動車5型

使用頻度：週5日（月～金曜日）

使用用途：通所利用者、短期入所利用者の送迎、受診送迎、利用者外出

得られた効果

箱バンの車両であり、ある程度の高さとスペースがあるため、身体状況によって車いすが大きい方、長さがある場合でもある程度乗車可能であるため、送迎の組み合わせの幅が広がっている。購入前に1台廃車にしていたため、大型車両に利用者様を一度に運ぶことにより、長い時間車に乗っている方もいたが少し緩和される見込み。

今後の 課題

通所の送迎で使う頻度が一番高いため、現場では配車担当を中心に、いかにスムーズに送迎を組めるかに取り組んでもらっている。

送迎時の居宅サポートの時間が決まっている方、ずっと車に乗って移動することで疲れてしまう方や多動な方、大きな声を出してしまう方等もいるため、個々の事情を加味したうえで送迎を組むことが難しい。今回助成いただいたエブリィは廃車にした車よりも使い勝手がよいのでそういった課題により一層配慮していきたいと思う。



特定非営利活動法人ゆうハート安芸の会

【所在地】 高知県安芸市

【対象者】 知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

- ①清掃作業受託 市内を中心に県・市の公園清掃管理 ②野菜梱包作業受託 茄子袋詰め・箱詰め
③(株)長野瓦工場清掃作業受託 工場内清掃、除草 ④海藻養殖事業シーベジタブル作業員
⑤アルミ缶収集事業 ⑥自動販売機清掃 (株)ムラタより委託されている自販機清掃

「車両の購入」

【助成額】 117万円

実施目的

事業強化の為に作業用車両の購入清掃作業受託場所への人員の配置及び茄子等の運搬能力の強化通所者の作業効率アップとしてスムーズな作業場所への人員輸送又作業用具の積載や茄子梱包箱納品回数の増加

実施内容

◇車両購入

車名 「スズキ エブリイ JOIN」 型式 「5BD-DA17V」

使用頻度 一日平均4回以上

使用用途

作業用車両により人員の配置及び資材・茄子等の運搬事業

1. 野菜梱包作業 高知県安芸市芸西村出荷場から本事業所までの茄子の運搬本事業所にて茄子の袋詰めから梱包まで行い車両に積載し芸西出荷場まで運搬
2. 清掃作業受託
県・市に清掃委託されている各公園への人員及び作業用具の輸送
3. アルミ缶収集事業
各指定場所におけるアルミ缶の回収作業
4. 自動販売機清掃作業
委託されている各自動販売機の清掃作業
(南国～安芸～奈半利の間)
5. その他
本事業所における必要物品の搬入及び搬出



得られた 効果

今回ワゴン車を購入し実際に使用した結果、12月分のワゴン車の燃料費が昨年度の12月と比例し抑えられた。

荷台が高く広くなり、茄子袋並びに茄子箱及び道具の積載量が増加した。

車内が広くなり、冷暖房完備による車内温度の快適化による利用者のパフォーマンスの向上。

今後の 課題

ワゴン車購入により各公園への人員の移動がスムーズに運び茄子等の運搬業にも数量の増加が期待される。事業強化に努めたいが人員の確保が大きな課題である。

【所在地】 鹿児島県薩摩川内市 【対象者】 身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

【日常の活動】

1. 就労継続支援B型施設「あすくーる入来」 利用定員 20名

就労活動として、食品加工班、パソコン作業班の2つの作業班を実施。利用者数：26名（R6.1.4 現在）

①食品加工班（12名）

地元特産品のきんかんを使用した甘露煮やゼリー、ジャム、ドレッシング作り、惣菜・弁当・もち・団子類・あく巻作り（主に同法人のおじゃったモールさつま川内館をはじめ近隣の物産館や道の駅などに納品を行っています。）

農作業係…地元特産品のハウスきんかん栽培やブルーベリー栽培、季節野菜作り（事業所内給食材料、食品加工班の惣菜などに使用）

②パソコン班（14名）

データ処理や名刺、ポスター・横断幕、年賀状等の印刷物を受託しています。

（主に鹿児島県関係や県立学校、一般企業、自治会関係、個人のお客様から受注をいただいております。）

「リフト付送迎車両の購入」

【助成額】 200万円

実施目的

通所利用者の送迎のための車両購入

実施内容

車両名：トヨタハイエース グレード：2000DX 車いす仕様車（Bタイプ）

型式：3BF-TRH200K 排気量：1,998cc

使用状況：通所利用者の送迎サービス

使用頻度：月平均22.4日使用 1日平均往復120km程度 1日平均8名乗車予定

1月あたりの走行距離 2,688km 見込み

得られた効果

・リフト付き送迎車を導入できたことにより、車いす対応の車両が増車され、今後新規利用者の受け入れ拡大が図れるようになった。

・現在車いすから送迎車に移乗して乗車していただいている利用者さんの負担軽減、職員の移乗介助等の負担軽減ができた。

・何度も往復していた送迎が一度でできるようになり職員の負担も軽減できた。

・利用日数を制限させていただいていた利用者さんの利用日数を増やすことができた。

・安心して送迎ができることにより、利用者さんの不安も解消された。



今後の 課題

- ・建物及び設備等の老朽化等が進んでおり、厳しい経営状況の中ですが、更新を順次行う必要がある。
- ・利用者確保に向けた受入れ体制の構築。作業室のスペース確保など
- ・各事業所安定したサービス提供に向けた職員の定着率を向上し人手不足の解消。
- ・災害時の対応などを含め、地域に開かれた事業所の運営。

【所在地】 沖縄県糸満市

【対象者】

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、
発達障がい者

【日常の活動】

就労移行支援事業（1か所）、就労継続支援B型事業（1か所）、一般相談支援事業（1か所）、
就労定着支援事業（1か所）、特定相談支援事業（1か所）、障害児相談支援事業（1か所）、
介護サービス包括型共同生活援助（1か所（共同生活住居3か所）、小規模保育事業（A型）（1か所）、
放課後等デイサービス（2か所）、児童発達支援センター（1か所）、糸満市基幹相談支援センター、
障害者地域活動支援センター陽だまりの受託運営（1か所）、短期入所（1か所）、

「車両の購入」

【助成額】 200万円

実施目的

当センターの園芸では、当会が商標登録をしている「大豆若葉」（大豆を発芽させた商品）を主力として、レストランやホテル等から注文を受け、収入を順調に伸ばしてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により注文が激減。収入確保のため、花苗を積極的に栽培し、企業の花壇管理や一般家庭向けに除草作業を行い工賃を確保している状況である。その活動で使用している農園芸用トラックが、購入から18年以上経過し、劣化が著しく故障が多い。修理費用も多額だが、修理期間もかかり納品が難しくなる等、園芸活動全般に大きな支障がある。沖縄県は新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言等が長期化し法人財務状況を悪化させ、福祉医療機構より3,000千円の運転資金の融資を受ける等、大変厳しい状況で、今般の貴財団の助成金を活用し現状を打開したい。

実施内容

当センターの園芸班では、当会が商標登録をしている「大豆若葉」（大豆を発芽させた商品）を主力商品として、レストランや式場、ホテル等から注文を受け、収入を順調に伸ばしてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、受注先の営業自粛等により、注文が激減。収入確保のため、花苗を積極的に栽培し、企業の花壇管理や新規事業として、企業や一般家庭向けに除草作業を行い、工賃確保に努めている状況である。その活動で使用している農園芸用トラックが、購入から18年以上経過し、劣化が著しく、エンジン、エアコン等の故障がとても多い状況で、現在、雨漏りから漏電し、運転中に電気系統が落ちる危険な状況で、遠方作業には対応していません。現在、新型コロナウイルスとの共存の緩和から、経済活動が回復しつつあり、主力であった「大豆若葉」の注文が増加している状況で、今後、夏場にかけて完全回復する想定をしている。また、事業拡大した除草作業も依頼が急増している。申請車両はトラックであるが、作業員を運べるよう6人乗りを申請しており、大豆若葉や花の苗等の納期の遵守、遠方までの除草作業の対応が可能となり、夏場にかけてエアコンにより熱中症対策も図られ、利用者のモチベーション向上が図られます。作業効率が上がることで相乗的に収入向上が達成でき、ひいては工賃向上を図ることができる。

【目標】

1. 大豆若葉商品

令和4年12月分369,000円であるが、令和5年度の販売収入1,700,000円（令和元年度ベース）を達成する。

2. 花・野菜等の商品

令和4年12月分1,537,000円であるが、令和5年度の販売収入2,650,000円（令和元年度ベース）を超える額を達成する。

3. 除草作業

令和5年度の作業収入2,217,000円（令和元年度ベース）を超える額を達成する。

・使用頻度については、花苗、大豆若葉の配達や除草作業等にて下記のとおり稼働予定である。

1. 大豆若葉配達 1日1回×5日（月～金）×4週×12月＝240回

2. 花、野菜配達 1日2回×5日（月～金）×4週×12月＝480回

3. 除草作業等 1日2回×5日（月～金）×4週×4月＝160回

得られた効果

助成車両を整備することで、先ず路上停車の懸念を無くし、遠方まで安心して作業や納品等を行うことができ、安定して納期を遵守し信頼関係を構築して継続して受注することができる。また、農園芸活動は、障がい特性によらず作業が可能で、さらに「大豆若葉」を開発し、沖縄の猛暑の中で農作業をするというイメージを払拭してきた。真新しい車両で、利用者が快適に納品や作業等を行うことで、利用者の「働く」という自尊心をさらに高めることで、効率的、相乗的に収入の向上が図られ、ひいては工賃向上へつなげることができる。

今後の課題

当会は地域に浸透しており、ご家族や地域から福祉サービスの期待や要望も多い。この福祉ニーズを具現化するため、現在、優秀な人材を確保し人材育成を進めている段階であり、地域の福祉ニーズに応え喜んでもらうため、今後も事業展開を図り、人材を配置し、地域と利用者職員、3者のWINを図る。近況では、就労継続支援B型が定員を超えており、高齢化や能力低下により生産活動への参加が難しい利用者もいることから、平均工賃月額に縛られない「利用者の就労や生産活動等への参加等」を評価する新しい就労継続支援B型の展開を図る。



2023年度 選考委員

選考委員長

高橋 守雄

全国災害ボランティア支援機構 代表

福田 好宏

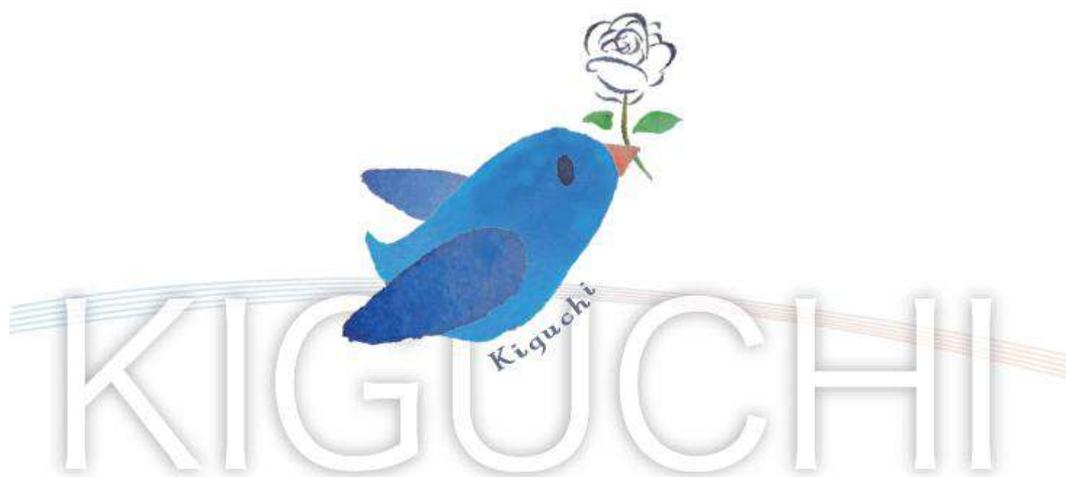
元 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 理事長・会長

松端 信茂

一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会 会長

山中 健

社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会 会長



公益財団法人木口福祉財団

〒659-0051 兵庫県芦屋市呉川町14番10号

TEL 0797-21-5150

FAX 0797-35-4500

e-mail josei@kiguchi.or.jp URL <http://www.kiguchi.or.jp>

2025年1月発行